

サモア国立大学と長野県看護大学の
短期学生交流留学協定に基づく
2015(平成27)年度
国際看護実習および学生交流事業
報告書



大切なのは互いのことを“知りたい”という思いと
“関わってみよう”という勇気

8月7日



全員で「Lau Samoa」を歌うのはこれが最後
2週間を振り返りながら思いを乗せて歌いました

準備に苦勞した成果報告会も無事に終わりました。



準備期間と2週間、多くの人に支えられて
本当に充実した時間を過ごすことができました



夏祭りでおおしゃぎ！ビンゴで花火が大当たり！！



6人で花火をしたのも夏の思い出



忘れられない夜となりました



初日にぎこちなかった私達も、徐々に距離が縮まり、いつしか心からの笑顔が絶えない仲間になりました

たくさん話して、泣いて、笑って・・・
この6人で、このときにしか出来ない思い出がたくさん出来ました



東京ではサモア大使館を訪問。
大使にお会いすることができました



いつかまたどこかで会えますように。
すべてのことに感謝の気持ちを込めて・・・



~Fa'afetai lava~
2015/07/27~08/11



また会う日までしばしのお別れ。
最高の笑顔で「Toe failoai！」



実習の息抜きに、
養命酒のCafeに。

7月30日



自然の中でリフレッシュ！！



Wow, how
pretty they are!



JICAに行き、候補生の方々と交流したり、
派遣員の方とお会いしました
大歓迎で受け入れてくれました



留学生にとっては初めての
電車旅で松本に行きました
電車内でアイスなんて贅沢！



国際看護学Ⅰの授業でつながった
信州大学の方々を初対面！
国際看護実習の先輩方にもお会い
することができました。



松本のゲストハウスへ！
松本の街はどうだったでしょうか？



松本協立病院では糖尿病について真剣
に講義を受けました。サモアでは糖尿
病が深刻な国民病となっています。



英語での話し合いでは、専門用語に苦勞しながらも真剣に議論し、それぞれに看護問題を抽出しました

実習先ではたくさんの方々にお世話になりました



♪プラムの里でも歌を披露♪
どんな場所でも歌える留学生のすごさに本学学生は驚き！



私達の歌とダンスはみなさんの目にどう映ったでしょうか？



ダンスのプロ(ノアさん・アモさん)から丁寧に指導を受けました。
ダンスを披露できるまでには、相当な苦勞が！？



オープンキャンパスでも大活躍の2人でした

8月1日



どんなときも、笑顔の素敵二人
サモアの陽気を運んできたようでした

その明るさに何度も救われました



7月27日

留学生の到着が予定より1日遅れてしまいました。宿舎の準備を万全にできました。



留学生3人、本学学生4人が履修。顔合わせ直後は、まだまだだごちない様子。



7月28日

英語講師のジョン先生には、様々な指導を頂きました

初日からチームワークの良さがありました、サモアの紹介や英語プレゼンに大忙しの日でした



アサさん、アサさんは、初日からダンスと歌を披露してくれました



その歌声とダンスには全員が感動されました

初日には、本学学生より個性あふれる自己紹介をしました。これで覚えてくれたかな！？



留学生2人は、スポーツが大好き！交流を深めるにはスポーツが一番！？



実習先の施設では、利用者さんが暖かく迎え入れてくれました。サモアと日本の社会保障の違いを知り、よい学びとなりました



実習では、認知症について日本とサモアの相違点を確認しました



～認知症予防の体操中～

7月29日

「長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定書」に基づく

2015（平成 27）年度「学生交流事業」および「国際看護実習」は、

本学のみらい基金およびサモア国立大学学生委員会

による支援のもとに実施されました。

実施にあたり、準備から終了まで広くご理解とお力添えをいただきました

学内外の皆様にご心より感謝申し上げます。

長野県看護大学とサモア国立大学との
相互協力に関する協定書に基づく
2015（平成 27）年度
「学生交流事業」および「国際看護実習」
報告書

長野県看護大学 基礎看護学講座 国際看護実習

発行：「国際看護実習」科目担当 宮越幸代

発行日：2016（平成 28）年 3月 31日

引用・転載を希望される場合は、お手数ですがご一報ください。

miyakoshi-sachiyo@nagano-nurs.ac.jp

〒399-4117 長野県駒ヶ根市 1694 番地

長野県看護大学

電話（代）0265-81-5100

サモア国立大学と長野県看護大学の短期学生交流留学協定に基づく
2015(平成 27)年度 国際看護実習および学生交流事業報告書

目次

- ・国際看護実習の振り返り (各場面写真)
- ・巻頭言 基礎看護学講座「国際看護実習」科目担当 宮越幸代
- ・2015(平成 27)年度「国際看護実習」の位置づけおよび目的
- ・2015(平成 27)年度「国際看護実習」の履修実習生および実習スケジュール
- ・2015(平成 27)年度「国際看護実習」の本学履修生による自己紹介
- ・学内外交流企画 教職員による歓迎会
上田高校との文化交流会
本学オープン・キャンパス
- ・「国際看護実習」学内成果報告会資料 於：長野県看護大学 (8月7日)
- ・本学履修生による日本文化の英語プレゼンテーション資料 (国際看護学Ⅱ)
“日本の夏の過ごし方” 小川奈々 増澤真菜実
“箸の使い方” 青木優果 一志歩乃加
- ・履修生による学び
長野県看護大学履修生 4名 (実習記録から抜粋)
サモア国立大学留学生 2名 (実習後レポートから抜粋)
- ・国際看護実習中の気持ちの変化 ～バイオリズムを描いてみました～
- ・遠隔授業「国際看護学Ⅰ」信州大学履修生との合同企画
- ・本学履修生による「平成 27 年度に来学した留学生」の紹介
- ・【平成 27 年度卒業研究】
「災害時を想定したサモアの看護学生による看護と看護技術」 4 学年 横谷美沙紀
- ・在校生による「留学生サポート・ボランティア」に参加した感想
- ・国際看護実習を終えて「今、思うこと」
本学国際看護実習履修生
基礎看護学講座 宮越幸代・今井家子・田村かおり
- ・平成 27 年度「国際看護実習」参考資料
長野日報 平成 27 年 8 月 2 日朝刊記事 (抜粋)
松本協立病院 ニュースレター掲載記事 (抜粋)
本学ホームページ (キャンパス・ライブ)「平成 27 年度国際看護実習」掲載記事
本学学報第 41 号 (抜粋)
- ・サモア国立大学および長野県看護大学間における交流事業学生短期交換留学
「国際看護実習」の概要



留学生の底力とそれに鍛えられる「土壇場力」

基礎看護学講座「国際看護実習」科目担当 宮越幸代

本年度のサモア国立大学と本学の大学間交流協定に基づく学生交流事業と国際看護実習は、本学に SOI APERAAMO さん（アモさん・男性）と AH FUA SAUNOA FAAIUGA さん（ノアさん・女性）の 2 名を迎えて行われました。国際看護実習は、本学 3 年生の 4 名が履修しました。サモアを出発する際の航空機のトラブルにより、来日が一日遅れたにも関わらず、留学生たちは来日した翌朝の授業（2 年次必修科目「多文化共生看護学」）で、早速パワフルな踊りとサモア紹介のプレゼンテーションを披露してくれました。

本学学生がいきなり目を剥かれたのは、ノアさんによる「タロファ！（サモア語で「こんにちは」）、Repeat after me!! タ・ロ・ファ！！」の声掛けから始まったいきなりのサモア語レッスンと、大講義室をフルに使ってのパフォーマンスです。到着するや否や、いつ練習したの?! どうして私たちがサモア語を! ? と、驚いている隙も与えず、今度は大きな体を大講義室いっぱいにくるくると動かして踊りを披露!

3 年生の実習生たちは、その瞬間まで英語プレゼンテーションの実施に多大なる不安を抱えていたのですが、留学生たちのその勢いに乗り、女優魂が乗り移ったかのような熱演でプレゼンを終えることができました。一番驚いたのは初めて会う異国からの仲間への緊張が、なぜか吹き飛ばしてしまった彼女たちかもしれません。

このような底力を「土壇場力」と呼ぶのでしょうか。留学生に「来日する前はどんな気持ち? 選ばれて嬉しかった? 日本で何がしたいと思っていた?」と聞いたところ、アモさんは「試験勉強で」、ノアさんは「嬉しいというよりも、どうしよう・・・という戸惑いや緊張で」、二人とも全然眠れなかったそうです。実は、二人は来日前、在サモア日本国大使館（2009 年アピア市に開設）の澁田一正大使に呼ばれ、現地新聞のほぼ全面を飾るほどの記事に取り上げられていたのです（写真参照）。来日する方も、お迎えする方も、お互いが尋常でない緊張感を抱えていたのです。それを吹き飛ばし、一瞬にして視線も気持ちも自分たちに惹き付けてしまう留学生、今年もすごい力を持った留学生を送って下さったサモア国立大学に感謝でいっぱいです。留学生の思いがけない反応やハプニングに、科目担当の当方自身もずいぶん「土壇場力」が鍛えられて参りました。

毎回、留学生は飛行機やバスを乗り継ぎ 24 時間以上もかけて駒ヶ根にやってきます。生まれて初めての渡航の末、たどり着いた日本はまさに盛夏。実習後に乗り込む車内は、今年も連日 40 度を超えていました。こちよ潮風がゆらゆらとヤシの葉を揺らすサモアに比べて、肌になべりつくような駒ヶ根の暑さは、留学生にとって過酷だったに違いありません。ともに実習する本学実習生も、新カリキュラムになってからは基礎看護実習 I・II だけを終えた 3 年生。この実習を終えると束の間の夏休みの後、領域実習に入ります。

暑さの中の異文化コミュニケーション、加えて双方の学年の違いにも立ち向かいながら成果発表会の準備が始まると、お互いの気配りにも疲れが出てきます。松本での協立病院視察や遠隔授業「国際看護学 I」信州大学履修生との交換発表会とキャンパス・ツアーは、そんなタイミングで企画しました。そこで今年も強いご支援をいただいたのが、既に社会で活躍する卒業生です。松本では宮澤江莉さん（2013 年度受け入れ年履修生）、宮澤奈津美さん（2009 年度受け入れ年履修生）が信州大学と松本協立病院で快く協力下さいました。東京では卒業生の川添祥子さん（2006 年度渡航年履修生）、JICA 青年海外協力隊 OB 会の皆さまの熱烈歓迎に、留学生も日本の最後の夜を思い出深く過ごすことができました。留学生が最後まで笑顔を決やさず、受け入れ先に対する礼儀を払い、元気に帰国できたのはまさに皆様のご支援による賜物です。

隔年毎にサモアと日本を行き来するこの学生交流事業は、多くの皆さまの支えと両大学の資金によって支えられ、お陰様で 11 年目を迎えました。その貴重な成果を広く学内外の皆さまと共有し、成果報告会に表しきれなかった学び、実習時間外のエピソード、在校生との交流などをこの報告書を通して知っていただけますと幸いです。

平成 28 年 3 月 31 日

国内外の実習でいつもお世話になっている JICA 青年海外協力隊 OB 会の方から「二人が現地でごんなりに話題になっているよ!」というご連絡をいただいたのは、2 人が到着する 2 日前でした。 ⇒

右からノアさん・サモア駐在澁田大使・アモさん



国際看護実習と災害看護演習の位置づけおよび目的

2015（平成27）年度 国際看護実習（サモア国立大学留学生受け入れ年度）

1. 実習目的

異文化的背景を持つ他国からの留学生と共同で保健医療福祉施設の視察や臨地実習を行い、互いの社会的背景や文化・習慣がどのように対象の理解や看護実践に影響を及ぼすのか、看護における普遍的な原則とお互いの国の特徴を知るとともに、国内外での看護実践に必要な国際的な看護の視点を養う。

2. 実習目標

- 1) サモア国立大学看護健康科学部の学生（以下、留学生）と互いの国の社会システムや文化を紹介し合い、それらがそれぞれの住民の暮らしや健康にどのような影響を与えているかを考察すると同時に、自国の文化や習慣への理解を深める。
- 2) 留学生と共同で保健医療福祉施設の視察や臨地実習を行い、サモアと日本で行われる看護の違いについて意見交換を行い、それらの特徴とそれぞれの違いが生じる背景を考察する。
- 3) 臨地実習での対象理解や看護アセスメントを通して、サモアと日本の看護学生が対象をとらえる視点や看護問題を抽出する過程の違いおよび共通点を理解する。
- 4) 臨地実習で共同した経験を元に、国や文化の違いを超えて普遍的に共通する看護の原則や効果的な国際的協働の方法について具体的に考察する。
- 5) 実習期間全般を通して、異文化の国で過ごす留学生とのよりよい連携と共同に努め、円滑なチームワークを行う。

3. 主な実習場所や訪問先と内容

複合福祉施設での受け持ち実習、地域の在宅訪問看護・リハビリテーションの視察
糖尿病教育入院の視察、高校生や信大生との交流・プレゼンテーション企画、オープンキャンパス参加、JICA 駒ヶ根訪問・ボランティアとの交流、在日本サモア独立国大使館表敬訪問 等
* 事前に留学生の希望や各自の期待などを勘案し、決定。

4. 実習の方法

- 1) 事前に、各自もしくはグループ単位での英語によるプレゼンテーションの準備、およびサモア 国の概況や文化・言語に関する学習を行う。英語でのプレゼンテーションの準備は「国際看護学Ⅱ」として開講する授業内で行い、自己紹介および自己目標、日本の保健医療や看護、文化や慣習等について、各自の関心に基づき留学生に日本を紹介する媒体を英語で準備する。
- 2) 互いの社会・文化を紹介し合うプレゼンテーションや自己紹介を通して、留学生と互いの文化と看護について、共通のテーマに基づいた意見交換を行う。
- 3) 保健医療福祉施設等で留学生と共同で対象者を受け持ち、一部のケアの実践や看護問題の抽出までのプロセスを通して、相互の視点や考え方の違い、共通点についての理解を深める。
- 4) 実習を通して学んだことを整理し、それらを実習目標に沿って考察し、留学生と共同で実習後半の成果報告会を実施し、その実施状況を振り返る。

2015 (平成27) 年度 「国際看護実習」 履修生 (実習生) およびスケジュール

履修生：本学 4 名およびサモア国立大学応用科学部看護学科 2 名 合計 6 名

大学	氏名	性別	学年
長野県看護大学	青木優果	女性	3 学年
	一志歩乃加	女性	
	小川奈々	女性	
	増澤真菜実	女性	
サモア国立大学応用科学部看護学科	SOI APERAAMO	男性	3 学年 (24 歳)
	AH FUA SAUNOA FAAIUGA	女性	

留学生日本滞在期間：2015(平成27)年7月27日(月)～8月11日(火)
うち 国際看護実習 7月28日(火)～8月7日(金) 9日間
* アピアからの搭乗便トラブルにより、1日遅れで来日

航空スケジュール (予約予定便)

往路 (アピア→オークランド→日本)

7/25 (土) アピア 22:10 発 VA92 便 (オークランド乗換) → 7/26 (日) 成田空港第一ターミナル 16:50 着 NZ99 便

復路 (日本→オークランド→アピア)

8/11 (火) 成田空港第一ターミナル 18:30 発 NZ90 便 (オークランド乗換) → 8/12 (水) アピア 21:20 着 VA91 便

月日	午前	午後
0 7月27日 月		留学生 成田国際空港→本学到着
1 7月28日 火	「多文化共生看護学」(2学年)授業視察・参加	大学歓迎昼食会 実習オリエンテーション・キャンパスツアー 学生ボランティアとの交流会
2 7月29日 水	「高齢者福祉施設」施設実習①	実習後カンファレンス
3 7月30日 木	同上 ②	実習後カンファレンス
4 7月31日 金	同上 ③	JICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所訪問 実習後カンファレンス
5 8月1日 土	オープンキャンパス(留学生および4年生有志によるオープン・セミナー)	
6 8月2日 日	休息	サモアと日本で行われる看護技術の交換会 地区の夏祭り参加
7 8月3日 月	在宅訪問看護・リハビリ(視察)①	県内スーパー・グローバルハイスクールの来訪：相互のプレゼンおよび文化交流交流会
8 8月4日 火	在宅訪問看護・リハビリ(視察)②	実習成果報告会準備
9 8月5日 水	実習成果報告会準備	松本への移動・信州大学「国際看護学 I」履修生との交流
10 8月6日 木	信大生との双方プレゼン披露と意見交換 キャンパス・ツアー	松本協立病院視察(糖尿病入院患者へのオリエンテーション)
11 8月7日 金	実習成果報告会準備	実習成果報告会 最終カンファレンス
12 8月8日 土	休息	留学生 駒ヶ根市近隣ホームステイ
13 8月9日 日	留学生 駒ヶ根市近隣ホームステイ	休息および帰国準備
14 8月10日 月	帰国のため上京	JICAサモア青年海外協力隊OB会・卒業生らとの交流
15 8月11日 火	都内散策 在日サモア大使館表敬	留学生 帰国便への搭乗

2015年春、選考試験結果発表後まもなくサモア国立大学に送った学生の自己紹介です。あれからの努力と成長を実感します。

NCN 4 STUDENT'S SELF-INTRODUCTION

Nagano College of Nursing
TALOFA,

We are waiting for NUS students Mr.Soi and Ms.Saunoa of NUS coming to JAPAN in July 2015!



Year	Name	Comments
3 years	HONOKA Isshi	Hi! I hook living healthy life now. I drink vegetable juice and eat yoghurt every day. Also my strong point is friendly and fresh. I'm looking forward to meeting you!
	NANA Ogawa	Hi! What is your recommendation food in Samoa? Please tell me! I like to eat^^! I lived in Matsumoto city where has very beautiful cityscape. So I want you to see there! I'm looking forward to meeting and studying with you. I'm impatient for your visit!!
	YUKA Aoki	Hello! I'm Yuka. Nice to meet you♥ I like traveling, swimming and reading books or comics. I'm looking forward to meeting you and talking!
	MANAMI Masuzawa	Hi, please call me Manami. I like the nature such as flowers, mountains and rice fields. And I like to know things I've never known before. I want to go to Samoa. I'm looking forward to meeting you!

Draft schedule (Suggesting)

26 Jul, Sun. Arrive in Narita airport at 16:30 (NZ099)

27 Jul, Mon. Pay a courtesy call to President of NCN, Meeting and Confirming practicum schedule, Meet with practicum members (NUS and NCN), and Welcome party.

28-7 Aug, Fri. Pending schedule: Exchange Presentation about own country, culture and Dancing etc. Nursing Practicum in Nursing home, Hospital and Community etc. Feedback Presentation about practicum

10 Aug, Mon Go to Embassy of Samoa in Tokyo, Tour in Tokyo town

11 Aug, Tue. Leave for Tokyo airport at 18:30(NZ090)

教職員による歓迎会が催されました

一日遅れの到着となり成田空港でのお迎え予定だった内田先生、今井先生には臨機応変な対応をいただきました。歓迎会では「機内持ち込みを、どうクリアしたの?」と思われるような武器(の模型)やラバラバ(腰に巻く布)、タノア(カヴァを入れる木の容器)のお土産をみんなで手にとったり、身につけて楽しみました。



歓迎会の企画および皆様のご参加により、留学生を温かくお迎えできましたことに感謝申し上げます。



出発から航空機の遅延があったにもかかわらず、サモアから本学に立派なお土産↑を届けていただきました(大会議室に展示中・オープンキャンパス等で披露)

スーパー・グローバル・ハイスクール「上田高校」による 本学訪問およびサモアと日本の文化交流会 高校生生徒感想

平成 27 年 8 月 3 日 (月) 13:30~16:00 長野県看護大学 教育研究棟「中講義室④」



- ▶ サモアの人との交流は、いい勉強になりました。なぜかという、私はこれから上田高校や日本の文化についてのプレゼンテーションをするときに、何を知りたいのかを知ったうえでプレゼンテーションをしたかったからです。それをサモアの人に質問でき、とても勉強になりました。
- ▶ サモアの踊りがすごくよかったです。あのスカート（名前は忘れてしまいました）も好きです。ああいいうゆったりした感じの服が好きです。伝統的な踊りって見ていて楽しいです。自然と共存しているなど感じます。今度はぜひ現地で見たいです。
- ▶ 「看護大学」という名前からは想像できないような豊かな国際交流を知ることができ、視野が広がった。
- ▶ キャンパスはとても広く、実習施設もとても充実していた。一人に一台顕微鏡があるのもとても驚き実験も印象的だった。サモア人留学生との交流はとても楽しかった。英語プレゼンテーションも成功してよかった。サモアのダンスがとても面白かった。独特な動きで目の前で見るととても新鮮だった。
- ▶ 今まで知らなかった「サモア」という国がとても身近に感じられた。獅子舞をさせてもらって、日本文化の発信という点でよい経験になった。
- ▶ 看護学校の授業は、設備も充実していて、建物もきれいだだったので楽しく授業を受けられそうなイメージを持った。この経験を進路の参考にしようと思った。
- ▶ サモアの方たちとの交流は、文化が相互に直接触れ合うことができるものでした。サモアの方たちはとても家族思いで、今の仕事も家族のために選んだ、ということを知り、とても感動しました。
- ▶ 今まであまり興味がない大学だったけれど、設備などがすごく充実していて、もしこれから助産師という仕事を考えるようになったら、この看護大学もいいと思いました。サモアの留学生の方と交流できたのは、とても良い経験になりました。自分からも積極的に質問し、サモアの文化を少し理解できました。
- ▶ サモアの方々には明るくてダンスが好きで、文化は違うけどダンスとかそういうところでつながりあえるんだなあと思いました。そして、サモアでの学校生活の様子を聞いて、学校+家事をやらなければならないのはとても大変だと思いました。
- ▶ すごく施設が充実していて、実際にあの場で生徒たちが実習しているところを想像すると、実践的でいいと思った。特に地域看護実習室では、階段、キッチン、居間などがリアルですごかったです。サモア人との交流は、ノアさんは雰囲気はほんわかしていてアモさんはとってもかっこよかったです。ダンスを見たり、サモアでは男性が料理すると聞いたりして、異文化を身近に体験できてよかったです。



2015 NCN Open Campus International Nursing Practicum in Nagano College of Nursing and Samoan culture

Saturday, 31 July 2015

- a.m. 11:30～ Presentation by Ms.Sachiyo Miyakoshi
p.m. 12:30～ Presentation by NCN Ms.Misaki Yokoya and Ms.Nana Nakatsuka
“Japanese Culture” in English
13:00～ Presentation about Samoa by NUS students
13:30～ Performance and Dance by NUS students
14:00～ Q &A ,Communication with High School students
14:30～ Rest and Round in Campus guide by Ms.Misaki Yokoya



留学生のプレゼンの時間は会場が高校生でいっぱい！今度は実習でサモアに触れてみない？！



2014年度「国際看護学Ⅱ」を履修した4年生が、準備していた英語プレゼンテーションを行いました。
このイベントの後にも、キャンパス・ツアーや地域でのお祭りなどで留学生と楽しみました。



ノアさんは踊りの先生でもあります。空いた時間では、常にサモアの踊りを指南。

国際看護実習 成果報告会

By NUS,NCN students
2015年7月27日～8月7日

Today's contents

- Introduce
- Samoan culture
- What we learned through this Practicum
- Interview
- Question and Answer
- Performance
- Greeting



Content

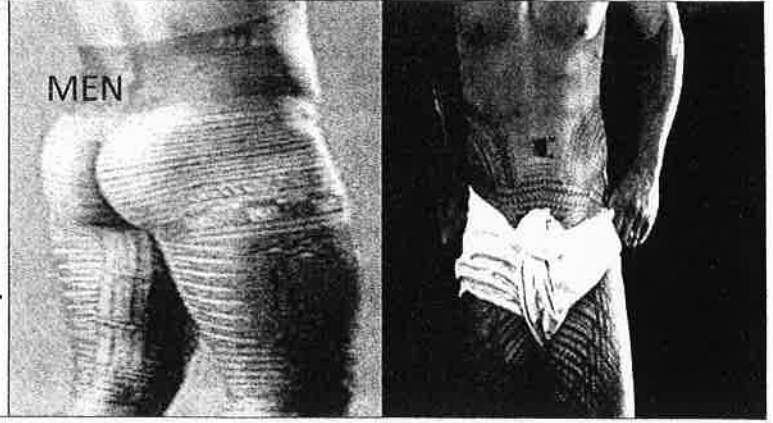
- Greeting
- Clothes
- Family and Houses
- Dances



TRADITIONAL CLOTHES

- Samoans say "Fanau le teine fana fanau, fanau le tama le tatau" or in English "If a girl is born it must bear the pain of birth, if a boy is born it must bear the pain of tatau".

MEN

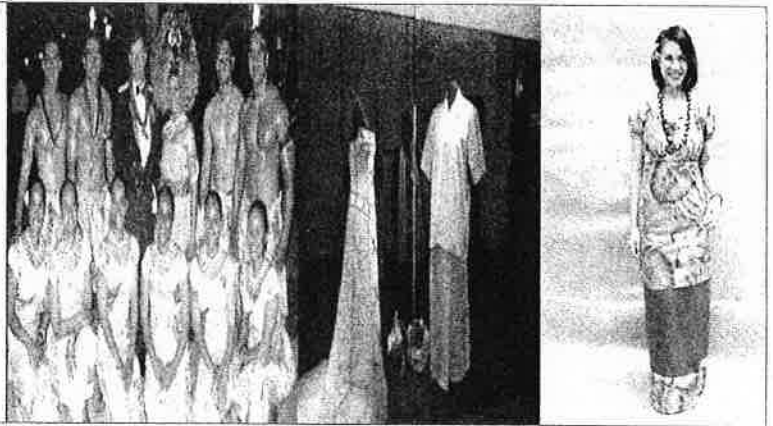


WOMEN



CLOTHES

- Puleyasi and Aloa



Japanese

- Respect for the elderly
- Care for Dementia user
- Therapist
- The differences facilities and care provided in every facilities
- Care-giver, Care-place



Difficulties through this Practicum

“ Poor Communication ”



Learning Outcome

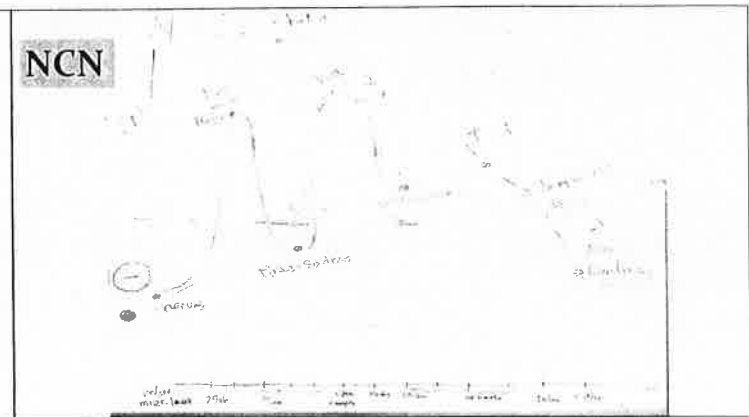
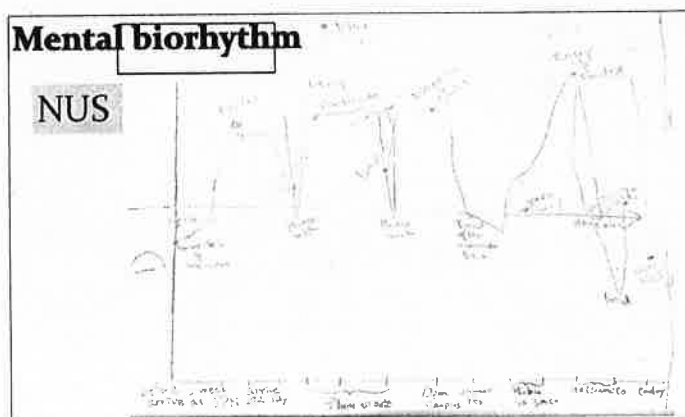
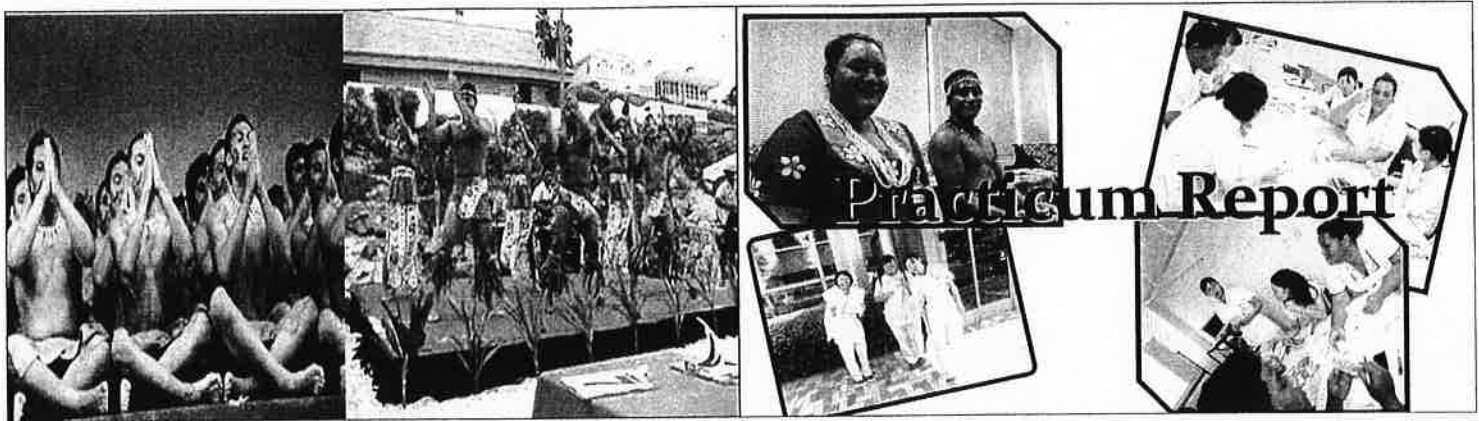
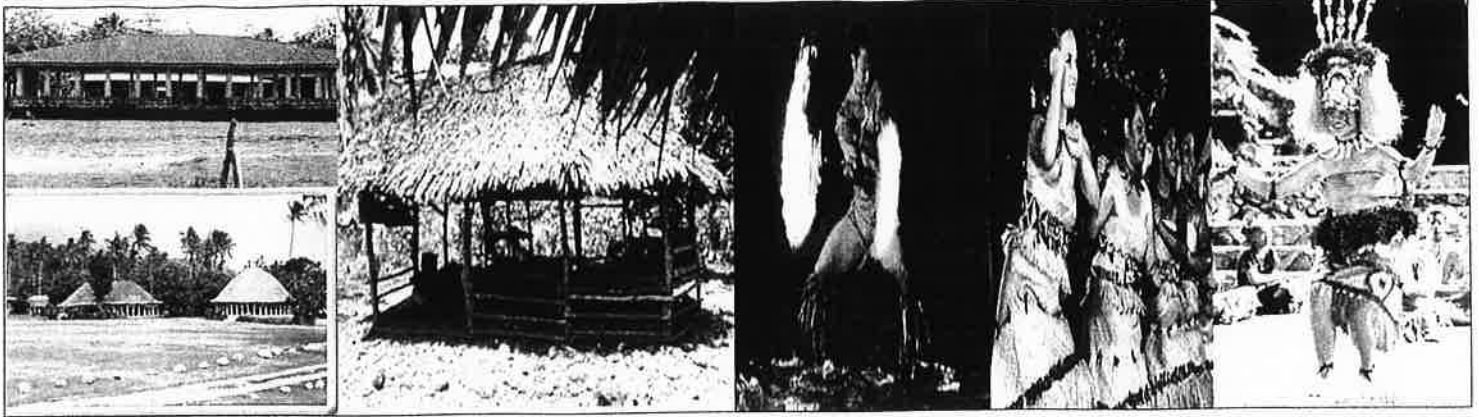
- Physical Nursing Skills
- Nursing Diagnosis
- High Quality of Care
- Important of Therapist
- Portion of Food
- Respect for the elderly
- Friendship



Japan

- Respect for the elderly and the family
- Attitude of accepting each other (culture)
- Friendship





What we learned through this Practicum

1. Interested through this Practicum
2. Difficulties through this Practicum
3. What being learned from each other.

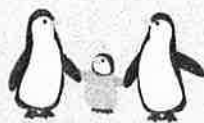
Interest through this Practicum

- The differences facilities and care provided in every facilities.
- Sufficient Resources
- Effective Care Management provided
- Nursing Care Insurance
- Proper DIVISION and ORGANIZING of care
- Rehabilitation in Facilities and Home Care Visit
- Concept Care for Dementia user

留学生への日本紹介英語プレゼンテーション①
2015年7月28日(火)「多文化共生看護学」にて公表

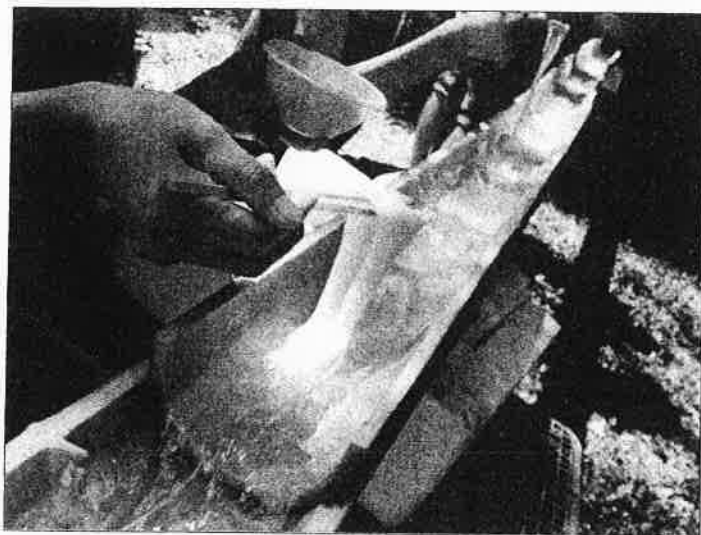


How to Spend SUMMER DAYS



In Japan

小川奈々
増澤真菜実



WEARING



WEARING



Why don't you try
These ways?



このテーマを決めるにあたり、留学生が来るのが夏であり、夏を楽しんでもらいたいと思いました。それも五感を使う日本の夏の楽しみ方を知ってもらいたいと思い、このプレゼンを考案しました。また、どうしても、興味を持って聞いてもらえるかを考えて動画や実物を使うというプレゼンを考案しました。英語講師のジョン先生には、正しい構文や間の取り方をわかりやすく指導していただき、よりよいプレゼンを行うことができました。英語でのプレゼンはとても緊張し、準備にも時間がかかりましたが、このように貴重な経験をする事が出来てよかったですと思っています。
(小川・増澤)

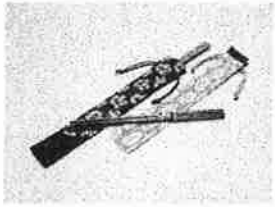
文字を使わず写真と動画が中心で、自分たちの英語での表現力が勝負となるパワポが完成し、最初とは比較にならないほど生き生きしたプレゼンになりましたよね。そして当日は、2年生と編入生の多文化共生看護学の必修履修生全員とジョン先生の前で、堂々と日本の魅力を披露し、後輩たちをすごく驚かせてくれました。
(宮越)



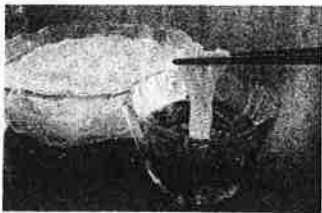
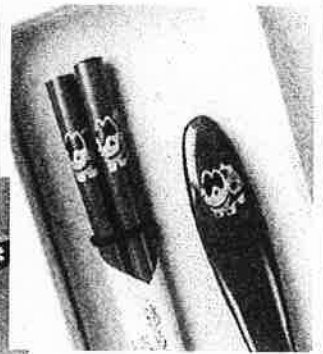
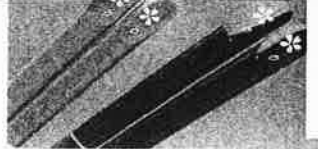
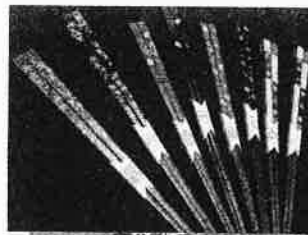


利用者様をグループで受け持つ臨地実習では、例年お世話になっている高齢者複合施設「プラムの里」に加えて「みぶの里」にもお世話になりました。サモアでも認知症予防の体操は考案されていて、それを交換し合ったり、サモアの看護師の役割が日本とは異なる点など、無ぶり手ぶりを使得っての実習となりましたが、限られた時間の成果報告会ではその全てを伝えきれなかったのが残念です。家族と離れて施設に入っている高齢者を見てノアさんがそっと流す涙、見たこともない大人用おむつや、サモアでは最も敬うべき高齢者への摘便への驚き、「お嫁さんと姑さんの葛藤」・・・・・・留学生がいつも驚く日本の実態です。また、今年度は日本の家族形態や住まい方を知ってもらおうと、新たに駒ヶ根市近隣のホームステイを取り入れてみましたが、「日本に家族ができたよ！」と喜んでいたアモさん。駒ヶ根最後の夜にご近所を通った際「僕の家族はあっちの方だったよね？」と暗くなった車外からいつまでも御宅の方向を追っていたのが印象的です。ホスト・ファミリーからも、子どもの相手や家事を率先して引き受け、楽しんでくれた、と大好評でした。今後はもっと学ぶ順序性（日本の文化習慣を実体験した後に受け持ち実習をするなど）を考えてスケジュールリングしたいと考えています。
 (宮越幸代)

My chopsticks



Lacquer chopsticks



LET'S PRACTICE AND USE!
THANK YOU FOR LISTENING
FA'AFETAI LAVA

留学生が「一生に一度になるかもしれない!?日本」に来たからには、箸を使う機会もあるだろうから、日本の文化でもあるし、紹介して使ってもらおうと思って、このテーマで行った。実習中は、留学生2人が箸を使う際に“これはしちゃいけないのよね”とかマナーについて覚えていてくれた。私たちは、楽しく聞いてほしいとつくっていたため、しっかり聞いてくれてうれしかった。

(青木 優果)

最初は、「英語でプレゼンなんてできない!」と思っていたけれども、自分でスライドを作成したことで、自分自身も勉強になることが多々ありました。さらに、多くの人前で発表することは大変緊張したけれども、素晴らしい機会が得られたと思う。来日した二人に日本の文化をよりよく知ってもらえるように作成しました。

(一志 歩乃加)

「英語でプレゼンなんてできない!」↑ ♥ホントですか~? 発表では2人ともすごく堂々としていて、箸にまつわる日本の文化を自分たちでも改めて学んだ上で、2人に伝えることができていましたよ。また、「箸」という生活に欠かせないもの、お土産としても安価で、「技術」も持って帰れる素敵なテーマに着目したのもよかったですね。

(宮越)

留学生への日本紹介英語プレゼンテーション②
2015年7月28日(火)「多文化共生看護学」にて公表

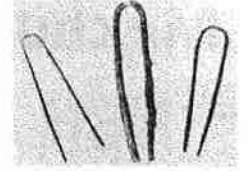
Chopsticks

～Hashi～



NCN
Aoki Yuka 青木優果
Isshi Honoka 一志歩乃加

HISTORY



Origin Form⇒

Yayoi period [300 B.C.]

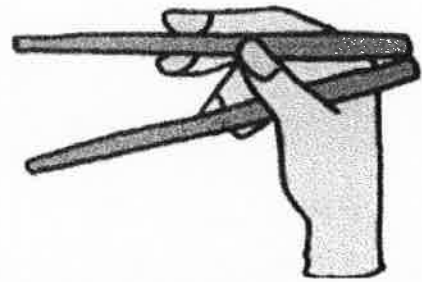
Present Form⇒

Asuka period [A.D.300]



EVENT

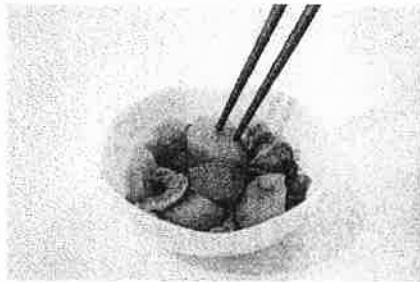
Kuizome



③insert another stick under the first stick
もう一本を最初のはしの下に入れる

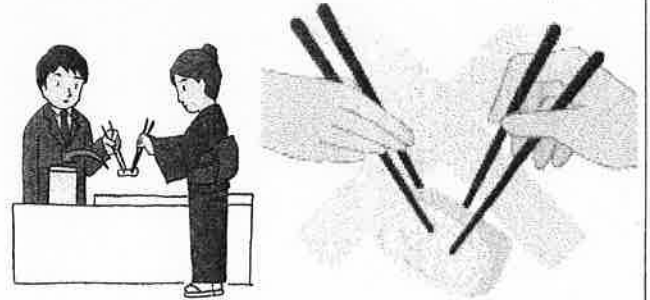
MANNERS

Sashibahi



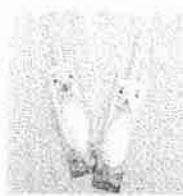
MANNERS

Hiroibashi

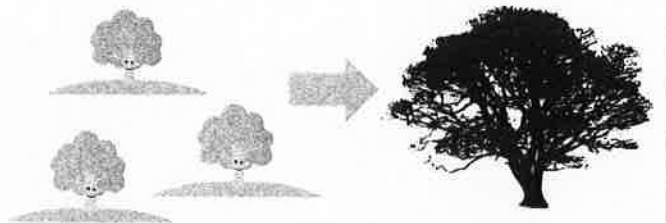


Waribashi

Mottainai



deforestation



2015（平成27）年度「国際看護実習」本学履修生による学び（実習記録からの抜粋）

「国際看護実習」では、何を通して何を学んでいるのか？

成果報告会だけでは伝えきれない内容を、記録から一部を抜粋して御紹介します。

英語での日本文化紹介プレゼンテーションと英会話コミュニケーション（「国際看護学Ⅱ」）

- ◆ 授業で作成した最初のプレゼンは相手に伝える、ということを中心に考えないものだったが、徐々にアクセントや一つ一つの単語の意味なども考えて発表が行えるようになった。また大勢の前で英語プレゼンをさせていただいた経験は自分にとって大きな自信につながったし、話す力がついた。海外でこのプレゼンができる機会があれば、もっと簡単な言葉でわかりやすく説明がしたいと思う。文化の説明では難しい言葉を使わなければ説明できないところがあるため、がみ砕いて説明できるように改善していきたい。また、留学生に比べてまだまだ自分たちは聞き手を引き付ける力が足りない。せっかくの自分たちの文化を伝えるチャンスなのだから、誇りを持って堂々と臨みたい。その後、アモさんがプレゼンで紹介した箸の使い方を実習先で上手にやってみせてくれたことに感動した！（一志）
- 約90人という大人数の前でのプレゼンは初めてで、大いに緊張はしたが、自分でも驚くほど落ち着いて進めることができた。緊張しやすい性格であることは自覚しているが、ゆっくり話そうと常に心の中で言い聞かせながら行うことができた。英語もほとんど記憶するほど練習してあったので、聴衆の反応を見ながらプレゼンができた。友達からも「落ち着いて見えた、英語も全部暗記していたんだね」と言ってもらえた。反省点としては、動画や音声など色々な工夫はできたが、一つテーマをもっと時間をかけて多角的に紹介したかったという点である。実物を回したり、体験型もやってみたい。また今回は浴衣を着て行えれば、より良かったと思う。（小川）
- ★ 日本の楽しみ方がこんなにあるとは思わず面白かった、原稿を見ずに発表してよかった、英語での発表は理解するのが難しかったけど、自分もやってみようという意見をもらった。英語のアクセントを意識したり、間を大切にしながら発表できた。ジェスチャーもできたと思うし、声の大きさも大きな声で発表できてよかった。2人で協力しながら発表することも意識できた。例えば、風鈴を鳴らしたり、スライドを進めたり、動画を流したり、2人で会話をするような発表を取り入れたりしてどちらかが発表している時も2人で発表しているということを実践できた。また、発表の際は緊張したが、下を向かず原稿も見ず、堂々と胸を張り、顔をしっかりと上げて笑顔で発表することができた。“五感を通して”を大切にしていたのでそのことを伝えられるプレゼンになった。覚えた英語を必死に思い出そうとして何度も噛んでしまったが、全体的に満足のいくプレゼンであった。（増澤）

糖尿病患者の入院場面や糖尿病の健康教育を通して学んだこと

- 糖尿病教室では留学生が多くの質問をしており、関心が強いことを感じた。印象的だったのは、「すでに糖尿病の人がより健康的になるために一番いい方法は？」という質問だった。サモアでは糖尿病が大きな国民的な健康問題であり患者が多い。また、「どうして糖尿病の患者の足に傷がないか調べるのか、傷があったらどうするのか」とも尋ねており、合併症のケアにも興味があることが分かった。必ずしも日本の方法が通用するかは分からないが、このような積極的な関心と具体的な知識・技術の提供機会が実習で得られるので、現地に戻ってケアに活かせる可能性があると思った。また、糖尿病は家族でも考えなければならないことだと言っており、糖尿病に対する関心の大きさを感じた。（小川）
- ★ 松本協立病院は糖尿病患者に対して「中食講義」を行っていて、その中で食品のパネルを作って自分でメニューを作成してカロリーだけでなく、炭水化物やタンパク質、脂質のバランスも意識していかなくてはならないことを学んだ。バランスを考えサラダを加えたり、脂質を半分の量にしたりと工夫をしながら行う必要性を感じた。この話を聞いて留学生は驚いた反応を示していた。それには、サモアでは炭水化物や脂質、カロリーが多い食事を摂りやすい生活習慣であることが関係しているのではないと思った。そのあとの買い物でカロリーを頻繁に見ている留学生の姿があった。この考え方をサモアに取り入れられるか考えたが、サモアで手に入れることのできる食品や大家族で同じものを食べるという食生活を考えていくとなかなか難しいものがあると感じた。（増澤）

訪問看護・訪問リハビリテーションのチーム医療を実際に視察して学んだこと

★ 訪問チームの対象者についての情報を共有することができ、その話の中でケアの対象者が利用者だけでなく、その家族も対象者であることを留学生に伝えたとき、なぜなのかと理由を聞かれた。説明をしたら理解はしてくれたが、サモアでは家族が介護をするのは普遍的であり、負担だと思わないという考えから、休みもなく介護をしていることは家族に大きな負担になっているため家族にもケアをしていかなければならないというのは日本の考え方であるという相違点を見つけることができた。在宅で生活をしていくことを維持していくために、訪問チームが様々なケアを行っているという考え方は共通していることを理解することができた。これは、在宅で家族がケアをしていくというサモアの習慣が影響していると考えられる。つまり、病院ではなく、家族のいる在宅で生活をしていくことが対象者にとってとても大切であるという考え方を持っているため、在宅で生活をしていくことを維持していくことは重要であると考えることができた。(増澤)

受け持ち対象者ととらえる視点の違いや看護問題の抽出を通して学んだこと

★ 留学生と看護問題を話し合ったとき、私が考えたことが正確に伝わっているか不安であったが、留学生が毎回こういうことだよねとわかりやすい英語で確認してくれ、お互い共有できていることを感じることができ、とても嬉しかった。私は英語に自信がなく英語で話すことに消極的になりやすかったが、「大丈夫だから話してみて」という声もかけてくれた。そのおかげで自分からどうにか伝えようと必死に英語で話すことができ、お互いの考えを少しでも共有することができた。無理だと最初から思い込まず、チャレンジしてみようという気持ちがとても大切であることを感じた。(増澤)

▼ 私たちはまずは疾病を見て、どんな治療を受けているのか確認して家族構成を見ていたが、留学生は利用者の情報でまずは家族から見ていた。サモアは大家族でサポートできる人も多く、目上の人の世話をするのは当たり前という考え方がある。留学生は家族を一番に大切にしているためにまずは家族の情報が知りたいと思ったと考えられる。利用者さんに対する声がけも、私は今日の調子はどうか、昨日はどうだったのか、とインタビューみたいになっていた。また利用者さんが「大変だと思うけど頑張ってる」、「両親にしっかり感謝してすごすのよ」という言葉に手を握って、しっかり目を見て話していた。経験の差であるかもしれないが、その行為が距離を縮めるきっかけになっていたと思うし、人に対しての接し方の違いだと思った。(青木)

★ 私たちは認知症について「病気である」と考えていたが、留学生は「加齢の変化の延長線上のものである」と考えていた。看護問題をあげていく中で留学生は起こっている状態を全て問題にしようとしていたが、私たちは起こっていても対象者自身で出来ていることはあげず、対象者が今、困っていることを問題としてあげた。サモアには日本のように老人施設がないから、看護と考えると病院の考え方の治療を優先している考え方を持つことにつながるのではないかと考えた。そのため、留学生は病院の考え方の治療を優先する考え方を持っていて、私たちは治療よりもQOLを高めるための今の状態を維持するかの考え方を持っていることから違った考え方が生まれたのだと考えられた。(増澤)

● 対象者の問題に「便秘」があげられどんなケアをするかという話題の際、受け持ちの対象者には下剤の使用と排便をすると話すと、サモアでは高齢者は尊敬すべき存在だから、下剤・浣腸は使用しても排便（指を肛門部に入れること）は失礼にあたるからしないとノアさんが話し、高齢者を敬う姿勢と、そのような概念のためにケアも変わってくるのだと学んだ。また褥瘡（仙骨部）と便秘の問題が挙がったときに、便秘のために下剤を使ったとしても、下痢になることで褥瘡が悪化する（湿潤・汚染）という結びつきにノアさんは即座に着目していた。看護診断で自分は初期には身体面（疾患面）に着目しがちなのだが、ノアさんは早い段階から身体面だけでなく精神面や感情面に着目して看護診断しており、全体を観る力の違いを感じた。精神面にも着目できる理由としては、サモアの主な care giver が家族やシスターであるために、一人の患者に寄り添うことの出来る時間が長いこと・日本では患者数に対して看護師が少なく業務に追われがちでまずは疾患という考えがあるからではないかと考察した。(小川)

● サモアでは高齢者のケアは住み慣れた家で家族みんなで行うことが多いそうです。日本では24時間在宅でケアをしていると家族の負担になってしまうし、施設にいたほうがより質の高いケアを受けられるという考えを持つ人が多いです。しかしそれは日本はサモアのような大家族ではないので家族一人ひとりの負担が大きくなってしまいうという社会背景があります。施設にいる高齢者も人によっては本当に家に帰りたくて、しかし帰れない理由もあってそれぞれ複雑な事情を抱えていることもあると私たちは理解する必要があります。そのため私たちはその気持ちを理解し、その上で、「施設にいる利用者の1人」という捉え方や“して当たり前”、“してあげる”などそういったかかわり方でなく「一緒に暮らしている1人」として関わっていくことを忘れないようにしたいと思います。(青木)

「多文化共生看護学」で学んだ「異文化ショック」や自分の「エスノセントリズム」の体験

- ▼ 日本ではこのようにやるのが当たり前だと主張すると、それが当たり前での認識ではない人たちは当然、戸惑いや不信感を持つ。日本ではこうするからみんなもこうしたほうがいいというのは押しつけであり、受け入れがたい。私は留学生の血圧の測り方に対して自分がどう感じたかのみを伝えてしまった。測り方は当然同じだろうと考えてしまっていたからだ。これは相手の文化を否定したととらえられても仕方がないことである。今考えるなら、自分とは違う手順だったという事実から、まずは手順についてもう一度聞くべきであったと思う。もし私が日本とは血圧の測り方が違う国で援助するとしたら私のやり方は不可解に思われるかもしれない。やり方は違っても対象にとってはどうなのか考えて、時には相手に合わせて自分のやり方を変えることもひとつの手段であると考えて。(青木)
- 異文化をもつ者と接触したときには、自分の常識が相手に通用しないことや、コミュニケーションの壁、生活様式の違いなどから少なからずストレスを感じる。そのようなとき、自分自身が異文化接触による心の反応のどの段階にあるのかを理解しておくことで、適切な対応ができる。自身も実習中に、この反応の変化を意識しながら留学生と関係を構築した。たとえば、実習での疲労が蓄積してきたときに、留学生との接触がなんとなく辛いと感じていたときに、今は排除段階～再統合段階にあり異文化に触れ自分の価値観・世界観が変化しようとしているのであり、相手を嫌いになったわけではないと思うようにしていた。そうすることで、相手の価値観や文化を考察するにつなげていった。そのため、自分自身が異文化適応のどの段階にいるのかを意識することで、今後起こりうる自分の心の変化を予測し、対処法を考えることができるため効果的であると考えて。(小川)

「国際看護学Ⅰ」で学んだ国際協力の原則について実習を通して考えたこと

- ◆ この授業で学んだ国際協力の原則とは、「現地の自助努力を導き出し、支援者が帰った後も現地に残り、定着する方法で支援する」というものだった。一時的には大変かもしれないし、最初の方法のようにものを贈ってもらった方が楽かもしれないが、それは結局はその国を助けたことにはならず、先を見据えた支援を行うことが本当の意味での助けとなる。授業では「伝える努力をすること、伝えるものを持つこと」も大切だとも学んだ。これは実習でも共通することのように感じた。これまで触れてきた文化が違うため、意見がぶつかることや、やり方が違うことは当然のことのように感じる。しかし、それはどちらが正しい、ということではなく、たとえ意見が食い違うことがあったとしても、自分の考えをしっかりと持ち、伝えていくことはとても大切だとこの実習を通して感じたからである。意見を交換し、伝えあうことで、お互いのことをより深く知ることができ、なぜそのような差が生じるのかも考えることで、様々な文化を受け入れることが受け入れることができると、留学生とともに看護展開をするなかで学び、つまり協働とは伝えることなのだとは私は感じた。(一志)
- 施設で留学生とともに三日間学んで、社会的背景を考えることは異文化を持つ者同士が協働することにとっても重要だが、その国の家族の構成を考えることがとても重要だと感じている。患者の捉え方や施設の捉え方もそこに大きく関わっているため、条件の一つとして挙げられると考えた。引き続き、この目標については在宅における看護でも考えていく。(小川)
- ★ 対象者の方の血圧を測るときに、電子血圧計を用いて測定した。そのときその電子血圧計の調子が悪く、いつもと異なる値しか出なかった。その体験をもとに留学生が「電子血圧計は便利ではあるが測定した値が本当に適切なかわからない。やはり、自分の目で見ると、自分の耳で聴くなど五感を通して測定したほうが正確な値を測定することができると思う」と話してくれた。このことから、機械のものは簡単ですぐに測定することはできるが、自分の目で見ると耳で聞いて手で触れてなど五感で感じながら看護を行っていく大切さは普遍的に共通する看護の原則であると考えられる。(増澤)

履修生のホンネ①：実習を通して苦労したことや難しかったと感じていることはコミュニケーションをとることの難しさです。使い慣れている言葉のコミュニケーションではお互いが考えを伝えることができ共通の理解を得ることができると思います。しかし使い慣れていない言葉では自分の考えを相手にうまく伝えることができないし伝わったとしても細かいところまで伝えることができないので内容を深めることが難しいことを感じました。例えば、日本語を英語に直訳すると意味が変わってしまうこと、辞書で調べて使おうとしてもその場で適した言葉ではないことがあったので共通の理解を得ることが難しかったです。

⇒「今日のあなた」はあなたを決めない。「明日のあなた」があなたを決める！この体験を元に「今後、どうする！？」を考えることが大事だよ。

この実習で【自分について力】とその背景の振り返り

- ◆ 自分は今まで自分の思っていることが思うように伝わらないと、途中であきらめたり最初から伝える努力をしなかったが、この実習で初めて言葉の壁にぶつかり、相手にどうしたら分かってもらえるかを考え、なんとか伝えようとする事ができるようになった。また、自分に余裕がないときにも、自分のことで精一杯になるのではなく、相手が困らないように自分にできることがないかを考えることができるようになった。(一志)
- ▼ 実習前は誰かの話を聞いても、ただ聞いているだけで自分がそれに対してどう考えているのか考えずそのままにすることが多かった。この実習では毎日留学生はどんな風に考えているのだろう、それを見て看大生はどんな風に考えていたのだろう、と深くその背景まで考え、それを聞くために自分はこう思ったと伝えてから人の話を聞くようになった。この実習では今からどんなことを話すのか、自分がどんなことを聞きたいのか言わないと皆で話し合いができない状態もあり、今までは人が言い出すのを待ったり、聞いているだけのことが多かったが、まず自分の考えを何とか伝えようと自分が変わったことは成長した点だと思った。(青木)
- 以前の自分は、何か課題を抱えると自分のことで一杯一杯になってしまう面があったのだが、2週間を通して、自分も疲れていながら、実習生に対して、表情や言葉の調子から、疲れていないか、喉が乾いていないか、ちゃんにご飯食べているか、眠れているかなどと気遣うようになっていた。(そのような力が付いた理由を振り返ると)積極的に自分から話すように心がけた。自分は一度伝わらないと会話を諦めてしまう性格なのだが、この実習では自分の英語が伝わらない・相手の英語が理解できないときには、「伝えたい・理解したい」と気持ちが燃えてきて、英語に詰まったり聞き直すことも多かったが、辞書を使ったり、言い方を考えて伝えるように努力することができたと考えている。また意識面では、一期一会という言葉に常に頭の片隅に置くことで、どの場面でも時間を惜しんで目の前の課題に取り組むことができた。何よりメンバーに対して思いやる気持ちが強くなった。さらに自分は実習前から「思い通りにいかないことも多いだろう」と腹をくくっていた。自分は作業に進展がないともどかしくていらいらしがちなのだが、実習中には多少遅いことも、時間通りにいかなくても、「仕方ない、そういうときもある」と心に余裕を持つようにしていた。その代わりに自分の出来ることはもくもくと進めておこうと考えていた。自分の出来ることを探しておこなった。たとえば、報告会の準備では、パソコン作業が得意なので、早々に作り始めていた。また、異文化接触とこころの反応のイメージ図を頭に入れ、心の揺れ動きが自然なものであることを理解しようとした。そうすることで、無理はしないようにしたり、自分の価値観の調整を行うことがスムーズにできたと考えている。領域実習ではより長い期間決まったメンバーと過ごすことになり、いかに相手を思いやったり、真摯に相手と向き合えるかがチームワークに関わってくる。言葉の壁が無くても衝突する・うまくいかないことがあるというのは常に頭の片隅に置いておき、時には妥協したり、1つのものに固執しない心の余裕を持つようにしたい。また、他者を思いやることも大切だが、自分のことも考えて無理はしないこと、半分は自分のために良いと思えるようになっていきたい。この実習ではたくさんの人と関わるなかで、多くの場面で感謝する時があった。しかし、日常的に使っている感謝の言葉は日本ではどこか形式的に言葉や動作を言っているように感じていた。それを心から言えるように、何をすることも感謝の気持ちを忘れないようにしていきたいと思った。(小川)
- ★ 「積極的に挑戦する力と諦めない力」が付いた。英語が苦手だから、上手く伝わらないからという理由を持ち自分から積極的には話しかけないというのが実習前の自分だった。しかし、実習の中ではどうしたら相手に自分の思っている気持ちを伝えられるか、わかてもらえるかを考え、自分のわかる単語を並べ“伝えたい”という気持ちを常に持ち続け関わった。それでも伝わらない時はあったが、伝わったときや相手の伝えてくれたことを理解できたときは大変嬉しかった。このとき、自分の視野が広がりもっと関わりたいと感じることができた。また、相手のことを知るうちに相手のことを受け入れたいと感じるようになった。それは、苦手意識を乗り越え、一歩踏み出してお互いの考えや思いを共有できたことがきっかけだったと考える。(増澤)

履修生のホンネ②：疲れてくるにつれて徐々に負の感情を相手の長所と思うことは難しくなってきた。しかし、今回は日本での実習だからそう思うだけで、もしサモアで実習していたら相手の文化の中で物事を考えることになる、そう思うとあまり気にならなくなった。カンファレンスでは自分の考えを伝えようと何とか言葉を発しようとしたがなかなか伝わらず目標を達成するには難しかった。留学生との意見交換には先生たちの協力が不可欠だった。留学生は自身の国についてしっかり説明できるのに、私はそれができなかった。また制度や施設についての事前準備がかなり足りなかった。留学生とともに同じ状態で施設に行くのはとても興味深く楽しさを感じていたが、話し合いがうまくできずもどかしかった。今後自分が働く上では価値観が違う人達に会うこともある。相手の背景を知り、なぜその行動をとっているのか良く考えて接することで相手を認められることもある。自分の考えばかりを前面に出さず、相手の意見をきちんと聞くことも考えながら接していきたい。⇒この実習の後から始まる領域実習ですぐに活かそうだね！

自己および実習における全体（実習科目として共通する）目標の達成状況

- ◆ 事前学習していたのでサモアの文化を受け入れることはスムーズにでき、家族のことを大切に思う気持ちがあるからこそ日本の施設で行う医療に戸惑ったり、日本にいるとなかなか意識できないことを改めて考え直すことができる良い機会になったため、自己の目標は達成できました。たくさんの方の経験しながら、それでもその中から多くのことを学び、とても貴重な時間を過ごせた、と感じています。でもやはりコミュニケーションでは、こんなにも苦勞するとは思っていなかったもので、最初は正直戸惑うこともありました。言葉が分からなくても、話していれば通じるようになるのではないかと勝手に思っていました。しかし、そんなことはなくて、お互いに理解しようとしたり、何とか伝えようとしたり、そんな努力が大切なのだ、と実感しました。（一志）
- 1年生の時に留学生支援のボランティア（ツアさん、エメレさん）は行ったが、サモアの文化や習慣を具体的に知ることは出来なかった。また、ボランティアでは“働く”時のむずかしさを知ることは実際に知ることはできないと思っていた。自分の強みの一つは向上心であり、自分の能力を高めるために努力することが好きな方だと思っている。その一方で自分を高めようとするあまり、他者と協力することが苦手なときがある。弱みは自分の意見を言うことが苦手であり、即決力や決断力もない。しかし、そのおかげで、考えが深めることができると考えている。この実習はこのような自分の強みを生かし、弱みと向き合う機会になった。1つだけ心残りだったのは、毎回のカンファレンスをもっと深めたものに出来たらということである。しかし、実習全体を思い返してみると、第一に言えることは「楽しかった」である。コミュニケーションの壁に苦しんだときもたくさんあったが、異文化をもつ人々が簡単には理解しあえないという難しさを知った意味では実に充実した時間であった。また、サモアの言語に触れたり、ダンスや歌を教わって、サモアの文化を体で体験することが出来てうれしいと素直に感じることもできた。また、留学生が日本の良さ（食事や風景、建物など）を知り良い物だと言ってくれた時はどこか誇らしく思えた。そして、強く思ったことは、サモアに行きたいということである。留学生から聞いたサモアの生活や、本だけでは分からないその国の空気に触れてみたい。2週間を通して、いいチームワークを築けたのは、留学生の気遣いや陽気さに助けられてのことだと思う。私たちも人々の中では「ありがとう、thank you、Faafetai」という言葉が常に飛び交っていた。互いを思いやる大切さに気づいたり、理解したいという気持ちで溢れていた2週間であった。（小川）
- ★ 自分とは異なる見方や考え方について“自分とは違う”だけで解決するのではなくどうしてそう考えるのか、そう見るのかその背景を考え理解しようと取り組むことができた。その中で私が当たり前と感じていたことが普遍的ではないこと、便利であるが看護を行う上で大切にしなければならないことに気づき、学びを深めることができた。実習が始まるまでは不安と緊張でいっぱいコミュニケーションやメンバーのみんなと上手くやれるのか、具体的にどんなことに注目して学びにつなげればいいのかわからず不安だった。しかし、実習を通してコミュニケーションの取り方が分かったり、メンバーのみんなと協力して訳してきたり、どんなところから学びにつなげることができるのかがわかったり、学びの多い充実した実習にできた。国際看護の授業、ジョン先生の英語の授業、そしてこの実習を履修できて本当によかった。この実習の学びは、将来、看護職者の一員として働く場にスタッフとして外国の方がいたときにどうすれば効率よく共働できるかを考え実行するのに活かせると思う。また、外国の方に対してではなく、日本人の中でも様々な価値観、考え方を持っている方がいるので自分とは違った価値観や考え方を持った方々とも効率よく共働することについて考え実行することで活かせると思う。さらに、在日外国人の患者様がいらしたときにも活かせると思った。“英語を話せないから日本人以外は関われない”ではなく、まずは自分が目の前にいる相手を知りたい、受け入れたい、理解したいという姿勢を持つことや相手に伝えたいという気持ちを持って関わられる看護職者になりたい。“年齢、性別、国籍、人種、宗教などにとらわれず目の前で困っている人の支えになりたい”という、私がずっと持っている目標に対して一歩前進できたと思う。この実習で学んだことをこれで終わりにせず学び続けていきたい。（増澤）



2015（平成27）年度 サモア国立大学からの来日留学生による 短期学生交流留学の振り返り（英語版の日本語訳）

来日中は連日の暑さと過密な実習スケジュール、そんな中でも毎日色々な企画を準備してくれるボランティアのみんなと夢中で過ごしているうちに2週間があつという間に過ぎてしまいます。たくさんの笑顔を残し、お土産のたくさん詰まったカバンを持ってサモアに帰った彼らが、日本での2週間をどう振り返っているのか、是非ご一緒に共有させてください。彼らが学びたいと希望したことと日本では是非学んで帰ってほしいと意図したことの違いを見出すこと、思いがけないところでの学びなど、今後の実習や交流のあり方に重要なヒントを与えてくれます。さて、彼らの目には日本の文化や生活、医療、看護はどのように映り、何が印象に残り、今後の彼らの人生や職業的なキャリアに何を活かしてくれるのでしょうか。

AH FUA SAUNOA FAAIUGA（ノア）さん（女性）

私が日本に短期留学するにあたっての個人目標：

- 日本とサモアの看護ケアサービスの違いを比較し、看護実践に応用できる技術や技法に関する知識の向上を図る。
- 日本の文化と習慣を理解できる。
- 日本のヘルスケアサービスに参加する。

はじめに：私は、今年度2015年に推薦された2名の学生のうちの1名として、日本における看護技術や技法、人々に提供されているサービスの違いを観察する機会を得ました。さらに、この実習の効果的な点はお互いの国の文化や習慣を紹介することにあります。この実習では、看護の知識や技術、現在、提供されている標準的なサービスに関する教育に関して、サモアと日本の間で築かれた関係を結び続けることを目的としています。家族や地域でのヘルスケアサービスの質の向上のための情報や知識、技術を共有するという考えは、このプログラムにより始められており、サモアと日本の間で交換されている知識は、ヘルスケアサービスにおける専門的な見解に役立っています。

課題1：日本での経験をどうとらえたか？ 日本へ行く前、私は日本の文化や習慣を知り、学ぶことをとても楽しみにしていました。そして、私は日本で行われていることを理解するために、少しですが、日本についてのリサーチも行いました。私にとって、日本の文化や習慣は、様々な点において独特なものでした。日本の環境や人々は、違う職業の人々に関しても、あらゆる点において敬意を示していました。日本人は、とても誠実であり、言葉に忠実で、特に、時間は生活をしていくうえで最も重要なものです。

私が目にした日本の医療や看護は様々な点で、私を魅了しました。使用されている科学技術や利用可能な資源の水準は、全く新しい未来を見ているようでした。医療サービスの向上は、提供されている医療と同様に、看護職におけるサービス志向の考えを与えています。そのサービスは、すべての人々にとって利用しやすく、受け入れられるものです。

両国を比べると、サモアでは日本のような高い水準のサービスには近づいていません。さらに、ヘルスケアサービスを提供するための入手可能な資源も限りがあります。しかし、サモアでは、医療と看護の双方において、最良なケアの提供を維持する努力をしています。看護や医療における教育は行き届いており、利用可能な資源は不足しているものの、看護や医療ケアをどのように標準的なケアにあてはめ、必要とされる基準にまで到達させるかを教育されているのです。

課題2：日本での経験を今後、どのように活かそうか？ 私の将来の目標は、助産師になることです。

この夢は、ずっと私が興味を持ち続け、達成したい目標です。しかしながら、この交流プログラムにより、人々にケアを提供する他のすべての方法を考えるようになりました。この交流プログラムを通して、災害看護の分野を考えるようになり、興味を持ち始めています。なぜだかわかりませんが、災害看護を学ぶことに私の知識は集中しており、そのことをよく考えています。おそらく、私の将来の選択肢として、救急時や災害といったときに、いつでも行動に移し、注意を怠らないでいることを望んでいるのだと思います。

2009年に我が国に損害を与えた津波のことを考えると、それはサモアの国全体にとって大きな恐怖であり、衝撃です。自然災害への対応をよくわかっている人々もいますが、その他の人々は、自然災害が起きたときに、どのように行動しなければならないか理解していません。この災害は私たちを脅かし、また、私たちは被害を受けたり、亡くなったりした家族や友人のことを忘れることはできないでしょう。しかし、このことは、自然災害が起きた時、どのように行動すべきか、サモアの人々を教育することへ目を向けることになりました。なぜなら、この災害は数百人という死傷者を出した初めての津波だったからです。これと同じようなことを、あるサモアの哲学者も述べています。「困難なことに衝撃を受けるのはよいことである。なぜなら、その困難が次に訪れたときに備えるための教育となるからである」。

2009年9月29日に津波がサモアを襲ったとき、医療者による緊急事態への対応の準備が整っていただけでなく、他の誰もが一緒になって死傷者を助けることに力を合わせました。この問題に対して、私は、すべての人々がもっと災害訓練を行うべきだと考えています。

謝辞：長野県看護大学の学長やスタッフの皆さまには、日本滞在中にお世話になるだけでなく、この交流プログラム参加のための資金援助をしていただき、大きな喜びとともに、感謝を申し上げます。私たちの日本でのスケジュールは余裕がなかったですが、2か所の高齢者施設では、とても親切に、心からの笑顔で私たちを受け入れていただきました。ありがとうございました。また、実習をともに行った、まるで姉妹のような4人の学生にも感謝いたします。幸代先生と今井先生においては、私たちに対し辛抱強くいてくれたことや、日本滞在中の私たちの安全を守ってくれたことに敬意を表します。

この交流プログラムすべては、互いの文化や習慣、ヘルスケアサービスにおける技術や技法の違いを共有することにより、サモアと日本の橋渡しとなるだけでなく、私自身の人生の旅でもありました。私、Sounoa, Ah-Fua は、看護専門職をめざすこの気持ちを楽しんでくれた長野県看護大学のすべての皆さまの暖かさや寛大さに深く感謝いたします。どうか、このプログラムをこれからも続けてください。サモアの学生の看護や医療ケアに対する理解の向上のために。

SOIAPERAAAMO (アモ) さん (男性)

私が日本に短期留学するにあたっての個人目標：

- 日本とサモアの看護ケアサービスの違いを比較し、看護実践に応用できる技術や技法に関する知識の向上を図る。
- 日本の文化と習慣を理解できる。
- 日本のヘルスケアサービスに参加する。

はじめに：サモア国立大学と長野県看護大学の間で交わされている短期交換留学事業は、健康に問題を抱え何らかの支援を求めている人々への質の高いケアを提供する上で、お互いの国がどのようにしているかを学べる貴重で意義のある事業だと思います。2015年度は7月26日にサモアを立ち、8月12日帰国しました。自分にとっては、より効果的でパワフルな力をつけ、経験を積み、技術を磨く梯のような体験になりました。看護の核心ともいえるものは「ケア」そのものですので、もし私たちが提供するサービスが受け入れてもらえず、不十分なものであれば、住民の健康が損なわれてしまいます。この事業は住民への健康における専門職としての方法や新しいアイデアのようなもの、創造的なものを自分にもたらしてくれました。さらに、2つの国の間の違いで驚いたのは、それぞれの国のヘルスサービスがどう組み立てられて、どう組織化されているかを知ることがとても大事なのだと気づいたことです。確かに質の高いヘルスケアは、(どのようにすればより高いケアとなるのか) 定義づけることができるのだと実感しました。また、この事業は日本とサモアの両国の間の固い絆やフレンドシップの醸成にも貢献できるのだと感じました。どんなサービスがすべての国民に最高のケアを提供するのか、を考えることもできます。ほかにも、サモアと日本で標準的に実施されている看護ケアを比較したり、対照的に見ることはとても重要なのだと思えるのです。サモアと日本では、ケア施設の量や建物の違いに表れているように、両国の間の経済力の違いを実感させられましたが、このように違うからこそ、お互いの国のシステムの違いや日本だからこそ得られる経験をえられることは、とても興味深く感じられました。

課題1：日本での経験をどうとらえたか？

私が実習のために日本に滞在し、サモアと日本の文化の違いや暮らし方はどのように違うのかを学ぶことは大変光栄なことでした。それは、人々の挨拶のかわし方、意思疎通の方法、生活、立ち居振る舞いなど「生きる」というすべての行為における違いです。私がまずびっくりしたのは、朝、昼、そして夕までも人々があうたびにお互いが声を掛け合い、挨拶をしあっている姿でした。看護学生としてよりインパクトを持って学べたのは、サモアではかなりなカロリーを摂取する「食事」に関する日本のトータルな現象でした。また、夏祭りでの日本人のドレスアップも、サモアとはかけ離れた方法で興味深く思いました。

たとえば日本人が出会って挨拶をするとき、サモアでは手を握り合うところを、日本では頭を下げてお辞儀をするのですね。サモアでは食事のルールは決まって年長者が先に食べ、子どもたちは最後なのですが、日本ではそうではないのがとても面白いと思いました。

日本の医療施設自分が観察したり、体験したことからは、日本はサモアよりかなりふんだんに提供された資源や資材によって、より効果的な看護ケアが行われていたり、とてもよくオーガナイズ(やりくりや整理)されていると感じました。どの施設や部門も利用者のニーズや希望に基づき、彼らの潜在的な健康を満たしたり、どの部門でも効果的なケアマネジメントがなされるよう、異なった領域ごとに十分にオーガナイズされていました。ヘルスケアに必要なリソースや物品はすべて、ケア提供者によって用いられて

いました。それはリハビリテーションや在宅訪問のケアにおいても、です。サモアと日本の医療や看護の違いの一つは、まず経済的な背景の違いからくるリソースの十分さと不十分さであると気づきました。また、たとえばサモアにおける認知症のケアにはまだ確固とした、効果的なマネジメントがなされていません。ただ、たとえサモアと日本の間に経済的な格差があったとしても、この二国間の交換留学システムは、健康を害した人々にケアを行う際の正確で可能性の高いより良いケアを提供するためのお互いの国の知識や情報を共有・交換し合う機会となります。

課題2：日本での経験を今後、どのように活かそうか？

特に支援を求めている特定の人々へのヘルスケアにおいて、それを自分がオーガナイズされ、しっかりとマネジメントされたやり方で提供するには、資源や資材が十分に整えられるべきだと思います。でもそのような物質に頼らず、この実習で私が学んだのは、時間に沿ってタイムリーなケアをきちんと行うことです。二国間のこの交換留学事業で私は、日本ではどのように医療や看護ケアが行われているかという、知識と経験を獲得しました。この経験は、将来、私が助産師として活動するという本来の目的と同じくらい、リハビリテーション（社会復帰、機能復帰）という機能における専門家としての役割も果たしてみたい、との思いにつながりました。さらに母国で行われている *Tender loving care*（慈愛に満ちたケア）と同じように、母国サモアでは日本で経験したケアの方法を適用してみたいと思っています。

災害看護については、津波のような災害に襲われたときに、どんな対応をするのかという点でサモアと日本では類似点があると見出せました。たとえば、津波が起こった時、その時とっさに何が起こったのか、何をすればよいのか人々はパニックになってしまいます。でも、しっかりと教育がなされていれば、人々は安全を確認して危険を回避し、少しでも早く高台へと避難することができます。今回、いくつかの災害場面を想定した演習を通して、日本にはサモアでは見いだせなかった様な思い付きがある、と実感しました。経済的な背景は確かに異なるサモアと日本ですが、固い友情と絆で結ばれたこの事業が続く限り、このような看護の核心にもつながるアイデアや情報を共有していくことができると考えます。

謝辞：母校（サモア国立大学）で私を留学生として選抜し、渡航にあたっての費用などについてもスポンサーとなってくれた看護学生連盟の学生の皆さんにお礼を述べます。そして長野県看護大学のすべての皆さん、宮越先生、2週間もの間、ずっとたくさんの支援や美味しくて珍しい食べ物の差し入れをありがとうございました。私が旅立つにあたって今後の看護職としての人生のあり方についても、色々な指南をくれた母校の仲間たちには本当に感謝しています。そして、実習だけでなく日本の素敵な自然や楽しさを教えてくれて、いつも一緒に行動を共にし、寄り添ってくれていた看護大学の4人のチームメンバーには、本当にありがとうございます！！を言いたいです。

*ノアさんからのレポートの末尾に、ノアさん自身が考えた日本語のメッセージがありましたので、共有させていただきます。帰国してもなお、日本とつながりたい、その気持ちが嬉しいですね。

“Hi Watashi wa Noa-san”

Watashi wa kono ryoko no tame ni, watashi o koen shite itadaki arigatogozaimasu.
Kore wa watashitachi no boken ryoko no gakushu desu Domo Arigatogozaimashita,
Mataaimasho Samoa e kittekudasai.



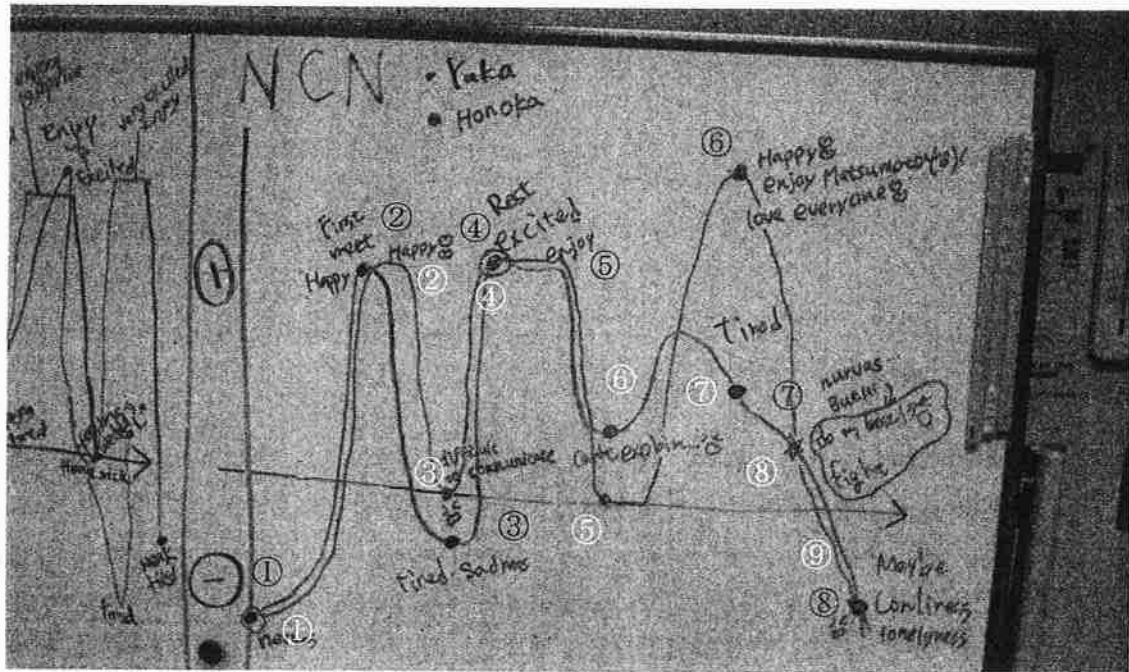
高齢者福祉施設で大好評を博したお二人。2016年は、サモアに行く本学学生ともぜひ触れ合ってね！

留学生と履修する「国際看護実習」って、どんな体験？！

実習前の予想は？！多文化共生看護学で学んだ「異文化ショック」って？

自分が意外に気が付いていない「エスノセントリズム」？！

実習中の私たちの気持ちの変化をバイオリズムで描いてみました！

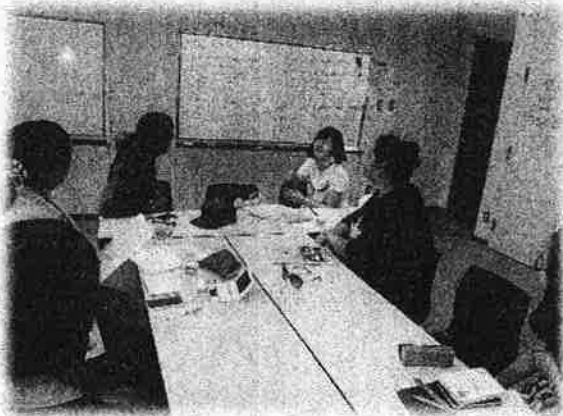


黒：20131003 青木優果

- ① 英語がわからないし、留学生がどんな人なのか顔と名前しかわからないし、しっかり実習をやっていけるのか不安だった。どんな実習になるんだろう…
- ② 留学生に会った初日。留学生はとつても明るくて元気、楽しく過ごしていけそう…。これからどんな話ができるのか楽しみ♪いよいよ実習が始まった！！
- ③ コミュニケーションがうまくいかず、疲労も重なり、ピリピリし始めた。報告会のテーマの話し合いもうまくできず、留学生からは“anything”準備が全然進まない…
- ④ 思いつめてきたころ、オープンキャンパスにて勉強から離れる。ダンスを教えてもらって、一緒にご飯を食べたり、楽しく過ごして休むことができた。
- ⑤ 養命酒のカフェで休憩!(^^)! 初めて飲むハーブビネガーラテがとてもおいしかった。留学生2人もNCNメンバーも楽しそう。このあとはJICAにいておいしいご飯を食べ、たくさんの人と交流できました。派遣員の方たちの積極性に驚いた！
- ⑥ 実習に戻り、報告会の準備を進める。テーマがうまく決まらず、みんなイライラ(*_*) NCNメンバーで少し決めたけど、前に決めたものと変わってしまっていた。うまく説明できず、留学生が怒っているように感じてしまい、悲しくなってしまった。
- ⑦ 国際Iの授業を一緒に受けた信大生の元へ！松本で楽しむはずが報告会の準備に追われ、宿でずっと報告会の準備。焦りで追い詰められて疲れた…
- ⑧ 報告会の準備が終わらない!!焦りだけが生まれる。人は来るのか、英語を通訳できるのか、リハーサルできる??何もかも終わらない!!
- ⑨ 実習が終わった。あっという間の2週間でもう終わってしまった。振り返ると色々なことがあって疲れたけど楽しかった。もうお別れだと思うととても寂しくなってきた。もう会えないのかな？

白抜き：20131008 一志 歩乃加

- ① 2人に会うまでは楽しみの反面、仲良くなれるのかな?とか、うまくコミュニケーションがとれるのかな?とか、いろいろ考えることが多くて、少し緊張もありました。この日は、2人の到着が遅れて、気が抜けてしまった(笑)
- ② 初めて会えたことに感動＼(^o^)/
2人ともすごくフレンドリーだったので、すぐに仲良くなれてほっとした。
- ③ 成果発表会の話し合いが思うように進まずに困った。
- ④ 養命酒工場の見学、JICAに行ったり、オープンキャンパスの準備を一緒にしたり、楽しいことがいっぱい!
- ⑤ 成果発表会のテーマを、事前に6人で話し合ったテーマから、NCN 学生が留学生2人に相談することなく変えてしまった。テーマを変えた理由を、2人に伝えそびれてしまったので、説明もなくテーマを変えたことを、2人が怒ってしまったかもしれないと思った。黙って発表会の準備をすすめる2人の姿をみて、申し訳ない気持ちと、このときから少しずつ気持ちのすれ違いを感じていたのとので、悲しい気持ちになってしまった。NCN 学生が2人に謝ると、2人は「実習で疲れていたからそう見えただけで、おこってはいない」と説明してくれたけれど、気持ちが通じ合わないことが、ただ悲しくて涙がとまらなかった。この日に初めて、言葉の壁を痛感し、その後も気まずさが残ってしまい、どうしたらまた最初の頃のように戻れるのかが分からなかった。
- ⑥ 信州大学のキャンパス見学や、松本協立病院での糖尿病教室のために松本に行った。電車の中でみんなでアイスを食べたり、ファミレスに行ったり、宿舎でサモアの歌の練習をしたり、とても楽しかった!松本プチ旅行をきっかけに、また6人の絆が深まったように感じてうれしかった＼(^o^)/
- ⑦ 成果発表会直前でナーバスになっている。準備時間が足りなくて少し寝不足だった..。
- ⑧ 2人とのお別れのことを考えると、とっても悲しくてとっっっても寂しい(;0;)



実習前に 15 回の遠隔授業（高等教育コンソーシアム信州）
「国際看護学Ⅰ」で一緒に学んだ信州大学医学部保健学科の
仲間との合同企画 IN 松本

～そうだ、モニターだけで知り合っていた信大のみんなに会いに行こう～

8月5日、わたしたち国際看護実習履修生6人で、電車に乗り松本に行きました。NUSにとっては、これが初めての電車旅。松本に着き、その日の夜は信州大学の学生と合流しました。この信州大学の学生は、6～7月にかけて本学学生と国際看護学Ⅰの遠隔授業を履修した生徒たちです。そのため、こうして直接会うのは初めてでした。夕飯をともにしながら、サモアの話や実習の履修動機、お互いの大学生活、将来の夢などを話し、大いに盛り上がりました。



信大の皆さん、コンソーシアム事務局の玉井さん、信大病院で活躍中の卒業生の宮澤江莉さん、2009年既習卒業生の宮澤奈津美さん、快い受け入れと入念なご準備をありがとうございました。できればもっとじっくり交流したかったね。



翌日の6日には、信州大学に訪問しました。浴衣を着た信大生が出迎えてくれました。信大生より、松本に関するプレゼンとお茶の紹介をしてくれました。NUSには実際にお茶を体験する機会も作ってくれました。わたしたちからは、国際看護実習を通して学んだこと・前日の夜6人で一生懸命練習したサモアの歌を披露しました。その後は、信州大学内の案内をしてもらい、昼食も一緒に食べました。画面上でしか会ってなかった、一緒に勉強した学生に直接会うことが出来てとても嬉しく、このような機会を持って本当によかったです。



Lau Samoa lau Samoa ea,
Le Atua o lou faavae.....



Ms.Noa 極秘来日!



松本のマチナカ、町屋風のゲストハウスでは、学生だけの夜を過ごすことができました。玉井さん素敵な宿の御紹介をありがとう!!

TEA*TIME

平成 27 年 8 月 5 ~ 6 日 松本にて

彼らから見たら私ってどんな「パパラギ」！？今年来学した2人を紹介します！



NOA

ノア

いつも笑顔で明るいアクティブな女の子。優しくいつも笑顔で声をかけてくれる。兄弟では自分ひとりが女の子で家事全般を担っている。家族をととても大切に考えていて、国際電話では毎回泣いていた。性格はとても社交的で日本のことを学ぼうとする姿勢が真摯に感じられた。助産師を目指していた。ディスカッションでは自分の意見をはっきり伝えてくれるが、報告会の内容などを話し合うと、私たちにとても気を遣って「なんでもいい」ということも多かった。よくNCN学生の冗談にのってれていた。変顔もよくしてて周りを笑わせていた。ダンスがとても得意で地元では教会でも教えていた腕前。教え方も上手で、一つ一つ丁寧に教えてくれた。運動が得意でバスケのドリブルが上手だった。食べるのが好きで、お菓子やコーラは大好きだったが、日本に来て特に気に入っていたのは「苺蒟蒻のゼリー」だった。のど越しが好きだそうで、スーパーや生協で買って食べていた。来年サモアに行く後輩には、是非ノアに「苺蒟蒻」をお土産にして渡してほしいなあ……

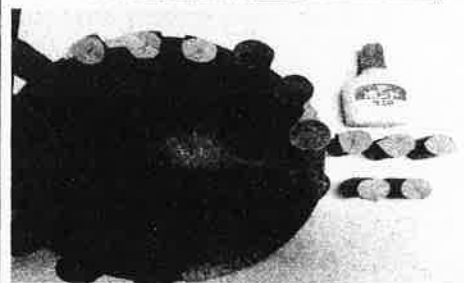


AMO

アモ

スポーツ大好き、筋肉もりもり！でかっこいい女の子に人気の男の子。同様に家族をととても大切にしている家族との電話では涙ぐんでいた。彼も助産師を目指していた。(サモアでは男性も就ける) 実習施設では携帯で認知症について調べ、積極的に意見を述べてくれた。また、対象者の方や先生、私たちにもたくさん質問をしており、理解しようとする真面目な姿が見られた。ダンスが大好きで、真剣な話し合いをした後にダンスの発表のための練習を始めると顔つきが変わり、服を脱いで男性パートを踊り始めていた。男性1人の為練習も1人でしていることが多かったが私たちにも教えてくれた。彼にとって休憩は大切で、報告会前でNCNメンバーが焦っているときでもぶれずに休憩していたが、放課後は体育館でスポーツをして楽しんでいた。日本に来て特に気に入っていたのは「花火」で、持って帰りたいと話していた。(飛行機には持ち込めないのもらった花火は全てやって帰りました。)

ちょっとこぼれ話： 帰国前にガールズから持ち帰れないほどのお土産をもらったアモさん。帰国前の荷物チェックを徹底的に定例化した宮越、今回も駒ヶ根の出発前夜、卒業生や在校生のボランティアの力も借りながら宿舎で留学生2人の荷物をそれとなくチェック！・・・場面：アモさんの部屋：「その大きな袋の物体は何!？」(み)、「いや、これは…持って帰るから・・・」(ア)、「どうして?何に使ったの?置いていけないの?絶対『超過料金』になるよ」(み)、「これお土産にあげようと思ったけど、飛行機乗り換えの時に壊れちゃったから・・・」(ア)、よく見るとサモアの伝統的民具「タノア」の足が数本、割れて外れています。「いいよ、いいよ、その気持ちが嬉しいから、受け取らせてもらうよ」(み)、「じゃあ、一晩待って」(ア)、「?!」(み)・・・そして旅立ちの朝。割れたタノアをすまなそうに差し出したアモさん、外れた足の接続部分とタノアの本体に共通のNo.がアモさんの手書きで示されています・・・「昨夜、パーツごとに組み合わせてみた。ここにこれを接着してほしいんだけど、接着剤がなくて・・・」。アモさん、日本の女子はそういう気遣いに弱いよ！お土産本当にありがとう。さて、成田空港ではニュージーランド航空から突きつけられた超過料金請求書に真っ青!の宮越。持って帰ったのはお土産だけなんだろうね・・・!?でもまっ、いいか。来年、また会おうね。



留学生への支援ボランティア学生による感想：

プライベート・タイムでのフォローは、双方にとって大変貴重な体験になりました。ありがとう！

昨年の夏、私はサモアからの留学生二人と学生ボランティアを通して交流しました。初めは自分の語学面を心配するあまり、上手くコミュニケーションをとることができませんでした。けれども、留学生とボランティアに参加した友人たちと一緒にバレーボールをして楽しんだり、会話をする中で少しずつ知っている単語をつなぎ合わせ、自分からコミュニケーションがとれた時はとても嬉しかったです。また、日本の文化に触れ、驚きながらも喜んでいる彼らが印象的でした。

2年 塚田加奈子

ちょっとの勇気でこんなにキャンパスライフが楽しくなる、人生が変わる！海を越えてやって来る留学生は、すごい贈り物をサモアから持ってくるんですね！



私は、サモアの看護学生との交流会に参加しました。サモアの方は、陽気で明るく気さくな方でした。私たちからサモアについて質問すると、サモアでは、家族との時間を大切にすることや兄弟が多いということをお話してくれました。サモアは日本とはまた違う雰囲気の国だと感じ、きっとサモアと日本との看護にも違いがあるのだろうとも考えました。私も簡単な挨拶やこの大学を見てどう思ったかななどを直接話すことができ、言語も違い、異文化で育った方と話すのは、新鮮でとても楽しかったです。交流会の短い時間では、わからなかったサモアの暮らしやサモアの看護事情をもっと知りたいと思いました。

1年 湯浅美香

ボランティアのアンケートより…

- ☺ 花火は映像でしか見たことがないと、手持ち花火をととても喜んでくれて嬉しかった。
- ☺ 言葉の通じない人との会話に壁を作っていたが、私が笑うと相手も笑ってくれて、言葉ではない繋がりをもつ楽しさを学ぶことができた。
- ☺ 自分の伝えたいことがうまく伝わらず、もどかしさと悔しさを感じた。
- ☺ 普段、なかなか会うことのできない国の人々に関わることができて、良かった。
- ☺ テストや課題があつてあまり参加できなかったのもっと触れ合いたかった。
- ☺ ぜひ、サモアにも行ってみたい！！

平成 27 年度「卒業研究」演習

2015 年 8 月 4 日(日) 於：本学基礎看護実習室

災害時を想定したサモアの看護学生による看護と看護技術

長野県看護大学 4 年 横谷美沙紀

指導教員：宮越幸代・那須淳子・田村かおり（基礎看護学講座）

演習時サポート：今井家子（基礎看護学講座）、中塚菜々（4 年）

西澤愛・藤田ゆらら（3 年次国際看護実習履修生）



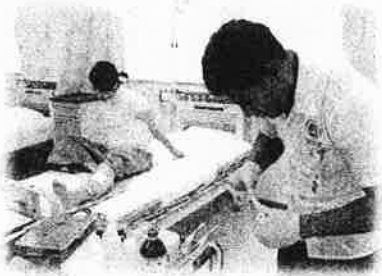
事例解説：2009 年サモア沖地震を想定 安否確認と自己紹介はかなり丁寧 着衣(ラバラバ)を裂いて応急処置



“万能ラバラバ”は担送にも使える

毛布を巻き込んだ担送も演習

ラバラバで三角巾固定もやってみた



創傷処置の基本はそれほど変わらない?! 無菌操作で見たプライドと自信 サモアではたっぷりの消毒液を使う



日本の湿潤療法も披露

ラバラバの正しい巻方は、こうよ!

後日、質問へのフォローをばっちり!

平成 27 年度「卒業研究」要約

災害時を想定したサモアの看護学生による看護と看護技術

長野県看護大学

学籍番号 20121082

氏名 横谷 美沙紀

指導教員 宮越 幸代 准教授

那須 淳子 助教

田村 かおり 助手

【目的】サモアの看護学生 2 名が災害発生を想定した状況で行う看護や看護技術を観察調査し、日本との違いやサモアの独自性を分析する。それを元に、災害時など日本での物的資源が限られた状況で応用できる看護や看護技術を考察するとともに、国際協力の際に対象国に合った看護協力の方法を検討するための示唆を得る。

【方法】サモア A 大学の看護学生 2 名に災害時を想定した 4 場面 - 1) 地震発生時の避難行動, 2) 地震直後の搬送・創処置・骨折の固定, 3) 患者のフィジカルアセスメント, 4) 避難所でのトリアージ - における看護と看護技術を実際に実施してもらい、それらを多角的、全体的、及び洞察的に観察し、正確な描写化と再構成を行い、分析した。

【結果】日本の看護や看護技術との違いは、①想定した事例の麻痺の原因に対して「脊椎損傷が考えられる」とした判断、②骨折部の包帯固定や搬送、創処置におけるラバラバ(サモアの伝統的な腰巻布)の使用、③骨折部の副木固定におけるバナナの木の使用、④多量の消毒液と深膿盆を用いた創処置、⑤患部を最も厚く巻いた包帯法に認められた。看護学生は全ての場面で患者への声掛けや働きかけを優先し、「I'm a nurse.」や「In my opinion・・・」, 「She is my patient.」という発言を繰り返した。さらに学生間での判断が異なっても、安易に自分の考えを翻すことはなかった。

【考察】骨折部の包帯固定や搬送、創処置において使用されたラバラバは、日本においては身近な着衣や手ぬぐいなどで代用することも可能であるが、大きさが十分で切り裂きやすい点ではサモアの独自性が考えられた。日本と違った看護や看護技術について、麻痺の原因を脊椎損傷とした判断には「①疾病構造の違いからくる対象のとらえ方の違い」、創処置における多量の消毒液と深膿盆の使用は「②方法の違いからくる使用物品の違い」、患部を最も厚く巻いた包帯法には「③使用物品の材質の違いからくる方法の違い」が考えられた。国際看護協力を行う際には、日本との違いを知識や技術の不十分さのみから見るのではなく、このような違いの背景となっている対象国の物品や慣習・常識を理解した上で協力の方法を検討する必要がある。また、常に患者を優先する対象国の看護職が感じている責任やプライドを考慮することも重要である。

災害時に必要な力 —サモア留学生との災害事例の検討—

みやし さちよ
長野県看護大学基礎看護学講座 准教授 宮越 幸代

災害時の看護対応についての意見交換

2015年、この夏も本学と大学間協定を締結しているサモア国立大学から、2人の留学生がやってきた。留学生は、帰国後間もなく看護師資格試験を受験し、2016年の年明けから地方病院で1年間のローテーション研修に入る最高学年の学生である。サモアは2009年には大津波、2012年には巨大サイクロンと、近年大規模な自然災害に見舞われている。そこで、災害発生時の事例設定を行い、その際の看護対応について、本学の学生と留学生が看護技術や意見を交換する機会を企画した。

身近なものを使った看護処置と、留学生が見せた自信

留学生は、設定した事例に対して自信たっぷりに、ときには留学生同士で異なる判断に意見を戦わせながら「自分なりの解釈と方法」を堂々



身につけていた布を引き裂いて包帯をつくる

と披露してくれた。たとえば応急処置では、サモアの伝統的な衣料であり身近な日用品でもある「ラバラバ」(男女が身につける木綿の大判布)を使った包帯法や搬送法を紹介してくれた。そのほか、辺りに生えているバナナの幹を使って、骨折部を固定するための副木固定法が実演された。大事故や災害の際、負傷や症状の緊急度にしたがって優先順をつける「トリアージ(選別)」の最後には、心肺停止で指先だけがかすかに動く事例が提示された。その事例検討では、留学生の1人が「黒!」と即断するや否や、もう1人が「まだ指がかすかに動いているじゃないか、ベストを尽くす! 赤!」と反論した。続けて、先程「黒」と判断した留学生が「他の患者もたくさんいるのに、そっちはどうするの!？」と強く迫ると、「いや、可能性がある限り精一杯尽くす!」と返答するなど、互いに譲らない場面も見られた。また、常に被災者の観察を優先し、どのような場面でも「大丈夫」「落ち着いて」という声かけを欠かすことはなかった。そして、そうして観察や声かけすることが「平時とは異なる場面だからこそ重要だ」と、繰り返し主張した。

お互いに使い慣れない英語を駆使し、実習室で災害直後の現場を想定した設定には、多くの限界があった。しかし、与えられた事例や環境に全く躊躇せず、次々と自分たちの考えや行動を体現する留学生の姿は、で

きる力を最大限発揮しようとする一人前の看護職者そのものだった。

有事に必要な応用力と基礎力、リスク回避の力

東京都が全戸に無料配布した『東京防災』は、素人でもできる応急手当や生活の知恵と工夫が掲載された防災マニュアルブックである。好評のため有料販売を始めたところ、注文が殺到して品切れとなっているという。国民の防災意識の高さの表れとも考えられるが、それらを即座に実行できる力をつけておく備えこそが重要である。大事故や災害では同時に多数の患者が発生するが、そうしたときにその場で即座に应用を利かせる力や、基本となる原理原則を踏まえて実践できる力が求められる。トリアージのようにさまざまなリスクを踏まえつつ、直ちに的確な判断ができる力も必要となってくるだろう。『東京防災』には、応急的な対処や判断に伴うリスク、その予防策までは示されていないが、有事には2次的に発生するリスクに注意して対処できることも重要であり、医療職者はそうした力を日ごろから身につけておく必要がある。今回の留学生との災害時の事例検討は、医療資機材や人材に恵まれた環境下での経験だけでは培えない力について考えるよい機会となった。

担当教員より、国際看護実習を終えて…



近年、南米ウルグアイのホセ・ムヒカ氏による「一番貧しい国の大統領」のメッセージが話題になっています。利便性や効率を追求し、物質的な豊かさを希求してきた国際社会で、今、本当に必要なことは何なのか・・・？着任と同時にこの実習を担当して7年になる当方にとって、サモアとの関わりは、いよいよ「大切なことは目に見えないんだよ」という星の王子様のメッセージを確かめるような思いになってきています。そしてこの11年間に輩出されてきた既卒の実習生たちも国内外で活躍中です。現在は、菊池郁希さん（2009年度「受け入れ年」履修生）がパラグアイで、笠井いずみさん（2008年度「渡航年」履修生）がマラウイで、看護職としてのJICAボランティアで活動しています。先輩たちが念願の旅先で見つけたものを近い将来、後輩たちに伝えに来て下さることを楽しみにしています。

「国際看護実習」科目担当 宮越幸代

今年はサモア出発時に飛行機のトラブルで1日遅れの到着となりました。深夜に到着しその朝から2年生の授業で、そして昼には教員の歓迎会でパワフルなサモアンダンスを披露してくださいました。その後も行く先々でダンスを・・・という要望に応じて気持ちよく踊っていただきました。学生たちは、プラムの里での実習や訪問看護で知った日本の高齢者ケアとサモアの高齢者のケアの違いを話し合うことができました。毎年のことですが発表のためのまとめをする時に本学の学生たちは、言葉がうまく出ないもどかしさを感じているようでした。サモアにないものを英語で説明する難しさ、英語の辞書にはないものを説明する難しさ、日本語で話し合っても難しいことを英語でしなければならないなどいくつかの難しい環境の中で、4人の話す力は確実に伸びていきました。6人で泣いたり笑ったり、よそ行きではない本当の国際交流が出来たと思います。この実習を通して本学の4人は言葉が通じない人にも自分から話かけることができるようになったと思います。そしてサモアの二人にとってはホームステイや地域の祭りへの参加も含め、一生忘れられない貴重な体験ができたと思います。きっと来年本学の学生が訪問した時には頼もしいターになっていただけるでしょう。

基礎看護学講座 今井家子

大きな身体に、弾けるような笑顔。サモアから頼もしい2人の看護学生がやってきました。私は、サモアのお隣の国、トンガにて2年間、看護教育に携わった経験があるため、懐かしい気持ちにもなりました。サモアでは、医療水準は高くはなく、衛生材料や薬品なども十分ではありません。しかし、そのような状況の中でも、彼らができる最高のケア、Tender Loving Careを提供していると、誇らしげに話していました。実習先の施設では、家族のことを想い、涙しながらも、施設の設備や日本で行われている高齢者看護に関心を示していました。彼らのHealth Care Providerとしての誇りや自信、そして家族を思う心は、本学の学生にとっても刺激になったことと思います。彼らは、Friendshipという言葉を残して帰国しました。異国の地で得られたこの友情は、今後も続いていくことを願ってやみません。

基礎看護学講座 田村かおり

～国際看護実習を終えて、現在思うこと～

20131008 一志 歩乃加

実習を終えてから時間がたった今でも、思い返すとつかしくて、あの日々のなかに本当に私はいたんだ、と不思議な気持ちになるくらい充実した時間を過ごせていたように感じます。私は実習が始まるまでは、さほど緊張もなく、むしろ楽しみな気持ちが大きくて、実習が始まって初めて留学生の2人と会ったときも、興奮してずっとはしゃいでいた思い出があります。実習で困ったこと・悩んだこととして、一番大きいのはやはりコミュニケーションがなかなかとれないこと。実習が始まったばかりの頃は、お互いに“会えてうれしい！”という感動が大きかったので、言葉が通じなくても、笑って許すことができたり、何とかして伝えよう、理解しよう、とお互いが努力できていました。しかし、実習や、お互いの学生に対して慣れが生じてくると、最初の頃感じていた新鮮さがなくなり、さらに実習の疲れも重なって、いらいらを隠せなかったり、お互いを思いやるのが難しくなって、気持ちがすれちがうこともありました。しかし、それに自分たちで気づき、立て直すことができ、本当に6人の絆が深まったと感じ、今は、あのときはつらかったけど、それも含めてこの実習での大切な学びだと、なつかしく思えるほどです。実習メンバーで過ごした時間はひとつひとつが大切な思い出ですが、中でも一番心に残っていることは、サモアの歌やダンスを2人に教えてもらいながら一緒に練習したことです。日本でサモアの歌やダンスをすること、これが文化を学ぶってことなんだなあ実感できた瞬間でした。数えきれないくらいに多くのことを学べたことも、海を越えた向こうに共に学んだ仲間がいることも、私のかけがえのない宝物です。うまくいかないと涙を流すこともあり、大変なことも経験したけれど、私を成長させてくれたこの実習は、戻りたいと思うくらい楽しく、幸せや喜びを感じることであった時間でした。

20131017 小川 奈々

国際看護実習が終了して、留学生2人を成田空港で見送ってから、はや8ヶ月近くが経ちます。国際看護実習を通して、私は「自分の弱さ・強さ」を認識しました。言語の壁を感じた時には自分の英語語彙力のなさや思い切りの悪さに落胆し、その一方で相手と分かり合いたいという自分の意志の強さや留学生を思いやる気持ちの強さに驚きました。これらの気付きが今後どう活かされていくかは自分次第ですが、英語のみならずすべての分野において学習意欲の向上に役立っていると自負しています。

実習では予期せぬ出来事もあり心労が耐えませんでした。それでも“異文化”に触れたことは、自分の適応能力を試したり、既成概念を変えたりと良いきっかけになると感じています。自分にとっては、国際看護は1年時のボランティア活動より始まったと思っていますが、その終わりは未だに見えていません。むしろ、この先の国際看護に対する思いが実習によって強まったように思います。

今でも懐かしく思い出され、時々会いたくなります。サモア留学生の太陽のような笑顔と魅力的な歌声に…。実習期間のみならず選考・準備期間を含めると長かったように感じていた当時と違い、今では「もっとあの時間にいたい」とその時間の短さを恨めしく思うこともあります。あの時・あの仲間でしたか経験出来なかったことは一生忘れがたい「宝」となりました。この実習に参加できたことは、本当に感謝しかありません。この実習で学んだこと、感じたことを忘れず、これからも多角的な視点で世界を見つめていきたいと思っています。

ちょっとこぼれ話：短期交換留学は2週間という限られた期間。一日が24時間あっても、実習外でも、滞在を目いっぱい楽しむ留学生からは目が離せません。ある時、「ベル・シャイン」に出かけた2人。「ごみゼロの日」という表示に疑問を感じたそうです。「ここには一つもゴミなんかないのに、どうして?!」。聞くとサモアでもこの6月からごみを捨てたら100USドルの罰金制度となったそうです。ごみがないのにごみゼロを大々的に設定する日本。ここまで大々的に掲げないと日本はゴミの山になってしまうのか？新カリキュラムで始まった「国際看護学Ⅱ」では、そんな日本の文化・習慣の紹介を外国人講師の視点から教えていただいています。自分たちがそれを正しく理解し、伝えることは予想以上に難しいことなのかもしれません。来年度はサモア国渡航年、サモア政府はたっぷり溜まった罰金をどのように国民に還元しているのでしょうか？来年度3年生となる皆さん、是非その目で確かめてみませんか？



実習が終わってすでに5ヶ月が経ちます。去年の夏は留学生と接し新鮮な2週間を過ごしました。話したいことが伝わらない、伝えることができない、相手の話していることが理解できない、大きな困難に直面していました。このことを辛いと思うこともありました、言い方を工夫し、単語を並べてなんとか伝えようとするのが楽しいと思うこともありました。また、留学生の明るい性格や笑顔に助けられ、たくさんのことを学ぶことができました。施設での実習では私自身も初めての体験ばかりで、海外がどのような制度で医療職が動いているのか、日本の制度についても説明できるほど理解していない状況だったため、日本語でもできないことを英語で彼らに説明するなんてことは難しかったです。そのような中でもNCNのメンバーと協力して文献を英訳して渡すなど工夫を考えることができました。カンファレンスでも1人で何とかしようとせずみんなで協力して訳して彼らにどのように伝えて言ったらいいのか頑張りました。伝わる伝わらないは別にしてメンバーで話し合いながら楽しく実習できたことが良かったと思います。

20131069 増澤 真菜実

実習を通して、言語、文化、価値観の違いなど多くの違いを感じる事があった。そのため、NUSの学生になかなか自分の考えや日本のやり方に理解してもらえず悩んだことが多かった。しかし、この時にただ”違う”だけにとらわれるのではなく、どうしてそう思うのか、そう考えるのかというその考えや思いの裏にある背景を知ることが非常に大切であることを強く学んだ。背景を知ることによって相手の考えを理解しやすくなったり、相手にも自分の文化や生活習慣などの考えの背景になるものを知ってもらうことで自分の考えも理解してもらえることがわかった。お互いの考えていること全てを理解し合うことは難しかったが、お互いのことを”知りたい”という気持ちを持ち、関わることにより少しでも多く、お互いのことを理解し合えるのではないかと感じた。このことは、国際看護だけでなく患者さんと医療者の間でも言えることだと考えた。この実習では、普段の講義だけでは学べない看護を行う上で非常に大切なことを学んだと感じた。

国際看護実習は、入学時の頃から興味があったが、受け入れの年で実際にサモアを訪れることができないことや本当に自分が実習をやり抜くことができるか不安になり履修の希望を出すかどうか悩んだ時期もあった。しかし、受け入れの年であるからこそ、自分が普段当たり前だと考えていたことが当たり前ではないことに気づけ、NUSの学生と話し合うことで看護について改めて考えるきっかけになり、これからの自分の看護職者の像について考えることができて本当に充実した実習になった。あのとき、自分には無理だと諦めず、一歩踏み出すことができて本当によかった。この実習で学んだこと、考えたことを忘れず、これからの実習や臨床の場で活かしていきたい。

新カリキュラムとなり、助産師志願の私たちも「国際看護実習」を履修できました！！

3年が国際実習を乗り越えて、
これから助産実習に挑戦します!!
勉強も頑張ります、楽しみたいと思います!!

青木 優果



今回受け入れた国際看護実習と
助産実習の両方を受けることができるとも
嬉しいです。学びの場が増えることで自分
の視野を広げることができたと、どんどん
伸びてきました!!これからがんばります!!

増澤 真菜実



上伊那

日刊



ご購入ありがとうございます

8月5日(水)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000代

©長野日報社2015



サモアの文化 留学生が紹介

県看護大

歌と踊り披露



県看護大(駒ヶ根市)で1日、オープンキャンパスがあり、サモア国立大学の学生2人

が見学者らにサモア独立国を紹介し、母国の歌と踊りを披露した。看護大に短期留学して上伊那地方の高齢者施設で実習などをしており、日本の看護や医療に関する知識の吸収に意欲を見せていた。

ともに応用科学部看護学科3年で、男性のソイ・アペラアモさん(24)、女性のアウ・ファ・サウノア・ファアイグ

サモアの文化を紹介するファアイグアさん(左)、アペラアモさん

アさん(24)。7月下旬から2週間の日程で、高齢者施設で入居者のケアなどを実習。両国の文化や社会的背景が看護にもたらす影響を比較、考察するなどしている。

2人はこの日、南太平洋にあるサモアの人口や衣服などを英語で紹介。アペラアモさんは「質の高いケアを学びたい」。ファアイグアさんは「日本とサモアの医療設備の違いを学びたい」と話した。

看護大の宮越幸代准教授によると、サモアでは高齢者が非常に敬われている。平均寿命も伸びており、「互いのいいところを学んでほしい」と話していた。

長野日報

2015年

宮田村新田の複合福祉施設プラムの里は7月31日、実習で施設を訪れていた南太平洋の島国サモアの短期留学生2人を囲んだ国際交流会を開いた。県看護大学(駒ヶ根市)の学生とともに、民族衣装を身に着けた2人が自国のダンスと歌を披露。施設の入居者や利用者ら約90人と触れ合った。

留学生2人は、サモア国立大学看護学科3年生。県看護大学とサモア国立大学は学生短期交換留学協定を結んでおり、隔年度に留学生を送っている。今年度は県看護大がサモア国立大生を受け入れ、ともに24歳のアモさんとノアさんが7月27

南国の踊り「にぎやかだね」

プラムの里 サモアの留学生と交流

日から約2週間の日程で来日している。

実習の一環で、留学生2人と県看護大生4人は7月29日から3日間、プラムの里を訪問。お年寄りの看護計画の作成などを通して、高齢者施設でのケアや両国の看護の違いを学び、互いの文化に理解を深めた。

最終日に開いた国際交流会は、留学生2人がサモアのダンスや歌などを発表。両国の小旗を振りながら見入った利用者らは「にぎやかな踊りだね」と関心し、代表者は「珍しい国の踊りを見せてもらえてうれしかった」と感謝の言葉を伝えていた。



ダンスを披露するアモさんとノアさん

訪問視察した松本協立病院の看護部ニュースに取り上げていただきました。

長野県看護大学「国際看護実習」受け入れ～ 2015.8月看護部

サモア国立大学の看護学科生が病院視察に来ました



サモア国立大学生と看護大生と病院職員(左 西大澤主任、右 東佐藤主任)



佐藤主任による糖尿病教室の説明



薬局にて大澤主任

去る8月6日、2年振り2回目の長野県看護大学とサモア国立大学との学生交流事業「国際看護実習」の視察を受け入れました。サモア国立大学看護学生2名・県看護大生4名、教員・他2名が来院しました。当日は、まず卒業生の西大澤主任による英語の解説付き院内見学後に、2東病棟で糖尿病学習入院患者へのコミュニケーションを見学と、2東佐藤主任よりDM教室の説明を聞きました。DMはサモア独立国でも国民病となっており、腎症による透析治療は国家財政に影響を及ぼす程になっているそうです。事前に資料を大学側へ送り英訳し、サモア生にも渡されました。2東で力を入れている「中食講義」は、サモアにない食習慣でしたが、国や地域特性、食文化、食習慣の違いを越え、自分の食事を考える機会となり大いに盛り上がる場面もありました。2時間だけの国際交流でしたが、熱心な英語と日本語でのコミュニケーションができ、質問も出され、学生と看護師の双方が良い刺激と貴重な経験ができました。皆さんご協力ありがとうございました。

松本協立 師長室 赤木富美子



キャンパスライフ >> 年間行事の様子



トップページ >> キャンパスライフ >> 年間行事の様子



長野県看護大学
「2015年度国際看護実習」

日時: 7月28日(火)~8月11日(日)

本学では、協定校であるサモア国立大学と国際看護実習を実施しています。



7月28日大学での歓迎会



前夜真夜中の到着にもかかわらず、I限から目を剥くパフォーマンスに2年生全員の目が覚める。



初日から有志学生との交流会、楽しいゲームで一気に距離が縮まりました。



英語プレゼンの指導講師も加わり、ラバラバ(腰巻式スカート)で大歓迎のキャンパスツアー



サモアのファレに似た茅葺の縄文式住居にはかなり興奮しました



どこに行ってもあつという間に大人気の留学生、言語に頼らないコミュニケーションの御手本です



受け持ち利用者の看護過程の展開や実施(写真はサモアでの認知症予防体操)を通して、サモアと日本における共通の原則を見出す



留学生はデジタル血圧計での測定に



シャワーが習慣の留学生にとって『座



高齢者福祉施設での実習最終日は実

挑戦後、『正確な値の確認には、水銀血圧計が必要』と本学実習生に説明



オープンキャンパスは満員御礼の特設会場でプレゼンと歌、踊りの披露

ったまま入れる浴槽』は、どんな感触？



ノアさんの指導でさらに踊りの腕を磨く実習生たちは女子会さながら

習生全員でサモア文化の披露



互いの国で行われる看護技術を実演交換、サモアでの技術をリアルに表現



来訪したスーパー・グローバルハイスクール指定校である長野県上田高等学校の英語プレゼンに練習を重ねた踊りとフリートークで御礼



糖尿病教育入院でのかなり具体的な指導内容に積極的に質問、何に豊かさを感じるか、複雑な思いが垣間見えた



遠隔授業の信大クラスメイトに成果報告会の予演会を開催、信大生は文化交流やキャンパスツアーを企画した



泣いた、笑った、自分の強いところ、弱いところも見えた、成果報告会の後は【Lau Samoa】を熱唱



実習生全員で過ごした最後の夜は、英語プレゼンで紹介した『日本のクールな夏の過ごし方』を体感！留学生からの『持って帰れないの？』という難問にどう答える……？！



日本での最後の時間は在日サモア大使館でシラ大使との接見で締めくくられました



長野県看護大学学報

平成27年度 国際看護実習報告

私にとって国際看護実習は大きな挑戦でした。中でもコミュニケーションが一番難しいと感じました。うまく言葉で説明できないことは悲しかったです。しかし留学生の明るさに助けられ、自分の気持ちや考えを伝えたいと思うようになりました。沈黙では何も伝わらないことを実感しました。実習に挑戦できてよかったと思います。

青木 優果さん (看護学部3年生)

国際看護の実習中は、言葉が通じないことへの苛立ちや、実習による気疲れで、お互いを思いやるのが難しくなって気持ちがすれ違うこともありました。しかし、今思い返すととても充実した日々を過ごすことができたと感じています。海を越えた向こうに、一緒に学んだ仲間がいることは、私のかけがえのない宝物です。

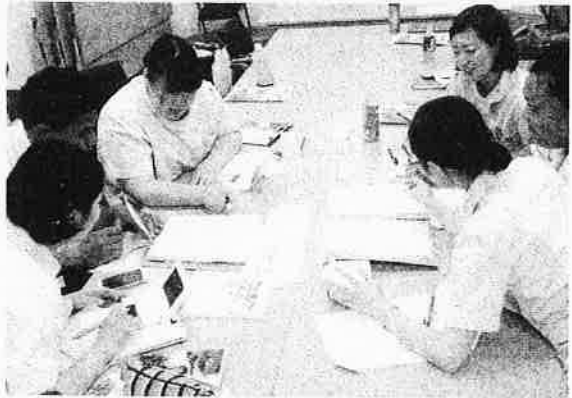
一志歩乃加さん (看護学部3年生)

国際看護実習では、本当にたくさんの学びと出逢いがありました。サモアの学生と共に1つの課題に取り組む大変さだけでなく、楽しい時間を共有する喜びを感じることができました。一緒に笑い泣きあった出来事ひとつひとつが大切な思い出です。準備期間から見送りまで、全てが充実した時間でした。かけがえのない仲間を得ることができ、国を越えた出逢いに感謝しています。

小川 奈々さん (看護学部3年生)

自分の思いを伝えることや相手を理解することの難しさを体験しました。しかし、お互いを理解し合えた時の嬉しさは忘れられません。これは、患者とのかかわりでもあることだと感じました。自分と考えが違うからかわらないのではなく、その方を"知りたい"という気持ちを持ち、かかわっていける看護職者になりたいです。この実習を通してわたしの夢が広がりました。

増澤真菜実さん (看護学部3年生)



臨地実習でのカンファレンス





学生短期交換留学「国際看護実習」の概要

1. 実施の経緯

- 1998年（平成10年） 長野県看護大学 Anne Davis 教授（現在、名誉教授）が友人を訪ね、南大洋州サモア独立国に学生有志とともに渡航。学生たちが医師不足の中で人々の健康を支えるサモアの看護師の活躍ぶりを見て、看護職の可能性の大きさを知る。また、同時に訪ねたサモア国立大学でも、日本との交流を期待するタイミングであった。
- 2001年（平成13年） 7月17日 両校間の相互協力協定に基づき、双方の学長が「サモア国立大学と長野県看護大学の学生交流事業に関する合意覚書」を交換する。
- 2004年（平成16年） 8月12日～28日 初回の学生短期交換留学「国際看護実習」が実施され、サモア国に本学より3名の学生が2週間の短期留学をする。
～現在 隔年度ごとに双方の大学に短期留学する形で実施（偶数年は本学からサモア国立大学に留学し、奇数年はサモア国立大学学生が本学に留学する）

2. 実習目標と内容

実習期間：留学先現地での2週間（14日間）を基本とする。

<p>サモア渡航年 (偶数年)</p> <p>本学より毎回4名 以内の学生が留学</p>	<p>開発途上国の暮らしと保健医療の現状を理解するとともに、サモア国立大学の学生との共同学習や現地看護師との協働を通して、サモアと日本の看護や保健医療の違いを対比し考察することで、双方の看護の特徴や看護の原則の普遍性を理解し、異文化的背景を持つ対象への看護や看護の国際的協働の基本となる力を養う。</p> <p>内容の例： サモア国立大学病院、地域保健サービス局の視察、地域病院、地域の看護師が運営する病院での実習および訪問看護実習、小学校等で看護職が担当する学校保健業務の視察および一部参加、双方の文化交流会、大学の授業視察および一部行事への参加、実習成果報告会 など</p>
<p>本学受入年 (奇数年)</p> <p>サモア国立大学より 毎回男女各1名の 合計2名が留学</p>	<p>サモア国立大学の学生と共同で日本の対象者を受け持ち、情報収集と問題点の抽出、ケアの実践を共同で行い、互いが持つ文化や社会的背景が対象理解や看護実践にもたらす影響を比較・考察する。さらに異文化的背景を持つ学生が日本国に滞在する際の対応を通して、彼らのニーズを理解すると同時に、自国の特徴的な文化・習慣に対する理解と表現力を高める。</p> <p>内容の例： 長野県内外の医療施設の視察（例：長野県立こども病院、松本協立病院、昭和伊南総合病院、聖路加国際病院 など）、老人保健施設での利用者受け持ち実習、乳児検診、母親教室、国際協力機構 JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所、高齢者デイケアセンターなどの視察・懇談会、大学の授業視察および一部行事への参加、実習成果報告会 など</p>

*これまでの実績を総合的に整理したものであり、実際には年度ごとに学生の要請等に沿って内容を決定している。

3. 実績：2004年度の開始以来、2015年度で11年の実績を重ねる。

実習生数（2015年度終了時）：本学に受け入れた留学生16名、渡航した本学学生17名 合計 34名

実習生が著した資料：実習で学んだ内容や成果について、2005年度は双方の学生が国際学会で共同発表した。同じく2005年度と2010年度には、本学学生が内容や成果を本学紀要に執筆した（下記参照）。

小澤杏奈、藤岡好美、結城美穂、田代麻里江：海外実習において看護学生が学んだサモアの文化と看護の特徴（資料）、長野県看護大学紀要第7巻、2005年4月。

菊池郁希、竹村麻紀、宮澤奈津美、宮越幸代：サモア国立大学留学生を迎えての2009年度国際看護実習—学生の視点で考えた実習の成果—（資料）、長野県看護大学紀要第13巻、2011年3月。

4. 近年の受入年の実施状況

留学生の進路や希望等を考慮した実習内容を検討し、関心の広がりや能力の開拓につながることを期待し内容を企画している。2005年度留学生の1名は卒業後、日本の看護系大学院（沖縄）に進学した。その後、現地地元の島（サバイイ島）での実習指導や本学学生の実習時間外の対応などで細やかに配慮くださっている。

来日した留学生の滞在中は、実習生以外の在校生も留学生と自由時間を共に楽しんだり、宿舎での生活全般をサポートし、「英語力にこだわらず、一緒に過ごす経験が大事」「国際看護が身近に感じられた」等の感想を寄せ、異文化的背景を持つ方々との共生を考えたり、日本の文化習慣を改めて見つめなおす経験となっている。また、実習での企画や視察先では毎回、複数の既卒国際看護実習生による協力があり、成果報告会には一般市民および他大学や近隣の学生、教員などの参加をいただき、本学への関心を高める機会ともなっている。2015年度は在日サモア国大使館（東京）への表敬訪問を行い、留学生および本学実習生有志がシラ駐日大使らとの歓談の機会をいただき、大使より今後の本実習への協力や支援のお申し出をいただいた。